

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会調査の基礎	3	前期	選択	いいえ	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉士国家試験の受験科目であるため多くの学生が参加していた。ただし意欲の点からすると苦手な数学のイメージから、及び腰の学生も多く見られた。統計的技法の習得に十分な数学的技能を備えていない者も多く、「統計の意味を理解する」ことに重点を置いた。授業のオリエンテーションにおいても、計算が苦手でも必ず社会調査を理解することができるという授業のコンセプトを説明し、学生の動機付けに配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均点78.9点(昨年度69.9点)。秀15、優22、良9、可17、不可1。 昨年度より10点程度平均が上昇している。成績上位層の割合も高い(58%)。不可1名と可が17名と二極化しているのが問題だと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	資格試験に対応した科目であり、一定の基礎的な学習の上に展開する3年次科目として、内容的に妥当性があると思う。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業方法としては(1)社会調査のイメージ作り(2)意義の理解(3)統計的手法の理解と活用といった順番で進めた。 (1)(2)については国家試験の過去問と照らしても学生も理解しやすいが、(3)から突然難易度が上がると感じる者も多かったようだ。テキストだけでなく、レジュメやスライド資料を活用しながら、できるだけ「なぜその統計手法が必要なのか」が理解しやすい授業を心がけた。授業中にはある程度理解できても、その定着が困難な場合もあり、繰り返し学習もこれまで以上に取り入れる必要があると感じている。 今回は個別の質問に来室する学生も一定数いて、その中には授業をより深く理解しようとする者も含まれていた。その質問内容については授業で少しだけだが触れるようにして、4年次の自己学習とのつながりを持てるよう心がけた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学習集団全体としては一定の目標が達成できたと考える。ただし、下位層に関しては授業内容についてこられない者が一定数存在する。これに対しては補習的教材の準備などで対応してはいるが、まだ十分な効果を上げていない。より積極的にどうわからないのかに踏み込んだ授業改善が必要だと考える。 今回は学習内容が特定の出題形式と結びついた形で習得できているのかを確認するため、まとめプリントを準備した。これによりある程度「どのような形で理解する必要があるのか」をイメージできたのではないかと思う。 上位層については、現状絞り込んだ範囲をきちんと理解させるという方法が効果を上げている。余裕のある学生はより広い範囲の学習を進める方法を検討したが、複数の授業範囲「基礎的、発展的」という形で整理すべきか、試験問題とどのように対応させるかなどより具体的に取り組んでいきたい。 昨年度と基本的に同じ方向で授業改善を行ったが、結果が良好であったのは学習集団の意欲や基礎知識等の違いに由来する可能性もあるため、次年度も引き続き学生の理解の程度を確認しながら授業を進めたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉行財政と福祉計画	3	前期	必修	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉の各領域について少子化高齢化に伴い財政規模が縮小傾向にある。社会福祉のいずれの領域に将来的に関わるにしても財政状況の理解が求められる為、具体的な話をして動機付けをしようところみたが、福祉行財政についての関心が実感として掴みにくいため「到達度自己評価」がやや低い結果となった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が3.5と低いながらも興味を持ってくれたことはひょうかできる。また、学習量において準備や復習を心掛ける者も僅かながらいた。更には、インターネットを活用し調べ学習をしたものもいた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	福祉行財政の現状が困難な状況下において学生自身が今後においてどのように認識し実践現場での業務に就く際にはどのようにすべきかについての認識はもってくれたものとする。僅かではあるが「授業に参加するための」学習に取り組む学生がいたことは評価できると考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	よりもっとインターネットの活用や統計資料を学生に提示すべきであったと考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	社会情勢に関心を持たせるよう取り組んではみたが学生の理解が深められるまでにはとどかなかったと考える。学生の関心へと結びつくよう取り組みたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉経営論	4	前期	選択	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は4年次の社会福祉士指定科目であり、「社会福祉実践の応用と深化」をねらいとした福祉専門科目である。受講動機を見てみると、「必修科目である」が33.3%、「資格取得に必要である」が82.5%となっている。福祉経営という学生にとってはイメージしづらい領域であるため、新聞記事で時事的な問題を提示したり、DVDなどの視聴覚教材を用いたり、また実習での体験と結びつけられるような話題を提示したりして、できるだけ学生が身近な内容としてとらえられるよう工夫した。また4年次の科目で国家試験を間近に控えているため、過去問を適宜提示し、授業内容と国家試験問題の内容が結びつくようにした。また毎回のコメントカードにより学生の質問や意見を求め、次の講義の冒頭で質問等に答えるなどのフィードバックを行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均点は71点、中央値は74点であり、再試対象者は13名であった。評価割合はA評価10.7%、B評価21.3%、C評価28.0%、D評価20.0%、E評価17.3%となっており、D評価、E評価で4割弱を占めていた。学生の自己評価の「自分なりの目標を達成した」の項目は平均値3.6点であり、「少しそうでないと思う」と回答した学生が2名いた。このことから、目標達成はどちらともいえないと判断した。DP1に関わる「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は3.8点であったが、「事象を理解する視点や考えを得ることができた」の平均値は3.6点であり、「少しそうでないと思う」と回答をした学生が4名いた。このことから、目標はやや達成されたと判断した。またDP2に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値はそれぞれ、3.7点、3.6点であり、これらの点からやや達成されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
---	--------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価は、各項目の平均値が3.6-3.8点であった。「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は3.7点であったが、「少しそうでないと思う」の回答をした学生が1名いた。全員に周知できるよう、さらにわかりやすく伝えていく必要がある。また「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は3.8点であったが、「少しそうでないと思う」と回答をした学生が1名いた。全員が質問しやすいような工夫をしていく必要がある。また「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値が3.6点であり、「少しそうでないと思う」と回答した学生が3名いた。講義系科目であるため難しいが、事例などを用いながら学生が考えられるような機会を作っていきたい。学習量の評価では、予復習、図書館利用は、少数にとどまった。課題等を提示することにより、自発的学習を促していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は4年次の社会福祉士指定科目であり、「社会福祉実践の応用と深化」をねらいとした福祉専門科目である。福祉経営という学生にとってはイメージしづらい領域であるが、学生への理解をさらに促し、次年度以降、成績の底上げを図っていきたい。4. で記したように授業目標の達成度は「どちらともいえない」と判断した。さらに学生の理解をうながしていくため、できるだけ学生が身近な話題としてとらえられるような工夫や、事例等を用い、分かりやすい説明に努めたい。またそれらが国家試験の勉強と結び付けられるよう促していきたい。さらに質問しやすいような工夫や、学生が参加する機会をつくること、自発的学習についても、課題等を工夫してうながしていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子ども家庭福祉論	2	前期	必修	はい	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	子ども家庭福祉を巡る現代的な課題について教授を試みた。学生が生活している時代と、様々な子ども家庭福祉の時代時代の変化とを合わせて学生の授業中の反応をみながら授業を実施した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験という最終的な成果では、基準に達していない学生が多かった。昨今の動向などについて、教科書レジメ以外にも自発的な学習文献等を案内したが、アンケートでは自発的な学習の成果が示されていない。次年度はこれらの反省を踏まえ従業内容を組み立てたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	必修科目であるため受講動機が明瞭には示されていないが、到達度自己評価は、まあまあと、わりにそう思うが大半であり、学生自体の評価からは概ね妥当であると考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	毎年レジメやパワーポイント資料について要求があるが、パワーポイント資料をすべて印刷すると授業参加度が極端に低下することなど、過去の経験から授業開始時になぜ現行の様式にしているのか説明している。様々な事象をその現象からのみとらえるのではなく、本質的なものまで遡及して考えられるように、メモを取るとか実際に余白に書いてみるなどの学習方法のみならず、思考の整理や論点の整理などの方法についても授業で案内している。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今回の自由記述の中に、試験に関して述べられているものがあったが、授業内容の理解度については、定期テストの成果で測定することとしており、試験前には試験で問う内容についてプリントを配布しており、多くの学生はその内容から重要語句などについて学習していることから、指摘については当てはまらないと考えている。また、60%落ちるといった伝聞をそのまま鵜呑みにしてアンケートに記述されている学生があったが、このようなことは一度も言ったことはありません。テストの最低基準点が60点であることと誤解されているのではないだろうか。また試験の形式や内容について個々は質問は公平性を書くため授業で案内したこと以外は受けないが、授業内容についてはオフィスアワーなど利用して、積極的に質問を発することを期待したい。この点については来年度授業開始時に再度確認して動機づけしておきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公的扶助論	3	前期	選択	いいえ	64

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「資格取得に必要である」59.5%、「必修科目である」57.1%であった。社会福祉士・精神保健福祉士指定科目(本学の必修科目ではない)であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置くとともに、生活保護の被保護者に対して、ネットではびこっている偏見を決して鵜呑みにすることのないよう、生活保護制度の理念・原理・原則や制度の正確な内容、および被保護世帯の実態を正確に伝えることに重点を置いた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均点は70.47点(福祉心理養護教諭コース70.67点、(子ども家庭福祉コース72.67点)、理想的レベル(80点以上)に達した者は19名、再試対象者は12名であった。問題が昨年度より難解であったせいか、平均点が昨年度(79.84点)より低下したことは少し残念な一方、初めて子ども家庭福祉コースの学生の平均点が福祉心理養護教諭コースの学生の平均点を上回った。達成自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は3.7、「専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」、「専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値はいずれも3.5であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけから見ると本科目は「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは比較的高い。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値はいずれも3.5であった。昨年度と横ばいかやや低下している。他方、「1回30分以上の準備」を行っていない学生は30名、「1回30分程度以上の復習」を行っていない学生は23名、授業以外の課題に取り組んでいない学生は33名であった。授業の課題以外に学習していない理由として「特になかったから」、「他の授業の課題があったから」という意見が見られた一方で、授業の課題以外に具体的に具体的に組み込んだ学習に「復習」、「テスト勉強を中心にした」との回答があった。他方、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均が3.0とやや低いことから、教員の業務の負担にならない程度で、学生の質問を促す方を考えたい。なお、学生からの意見は特になかった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、意欲関心のいずれもある程度は達成できたと考えている。話すスピードと質問を促す方策については、検討する余地があるが、それを除けば、改善すべき点は特になく考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
医療福祉論	2	前期	選択	いいえ	87

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	一般市民としての教養ではなく、利用者、当事者、患者へのかかわりを線m、音色として行うならば、興味を持ち、知識を蓄えることを願って具体的な社会事象を取り交ぜ新聞や資料を配布するとともに、命に関わるDVDを視聴しながら指導したが、受講動機で、「関心のある内容である」が1.3%と低く、また、「資格取得に必要である」が42%、「単位数を確保する」が10.1%であり、約半数うが思いとは異なる結果であったことは残念であった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価DP(1)～(10)までの平均値が3.0を超えいちおうの理解は出来ているものの、「まあそう思う」が主な回答になっており、評価は高いとはいえない。しかし、「知識を確認したり、新たに得ることができた」「学びを深めたいと意欲をもつことができた」と答える者が6割いたことは喜ばしい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「到達度自己評価DP(1)～(10)までの平均値が3.4を超え一応の理解は出来るものの、「まあまあそう思う」が主な回答になっており、評価は高いとはいえないが目標は到達できたものだと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	シラバスに沿い、教科書を中心に進めたものの、結果として1セッションごとに講義が 終わらず、理解しづらかった点は反省する。しかし、実践的な話に対しての 興味を持ってくれる学生もあり、今後は話とともに区切れ良く講義を進めて 行くことにする。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の進路がいずれの領域になるにしても、医療は切り離せるものではなく、むしろ 学びえておくべきことだと思う。可能な限り実践現場における問題や起こりうる ことなどに対し即応できる知識の習得を考えるあまり、話が多くなってしまったこと に対する反省とともに今後においても具体的に学ぶことがどのように反映するの かを指導していきたい。数は少なくとも学習達成していると考え。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
司法福祉論	4	前期	選択	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「資格取得に必要である」70.6%であった。このほか「必修科目である」も29.4%であったが、本科目は社会福祉士指定科目ではあるが、本学の必修科目ではない。4年生対象の科目であり、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験を受験する予定の学生が多いことから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、主な支援の対象者である保護観察対象者も社会の一員であり、先入観や偏見を抱かせないことに重点を置いた。また、更生保護の現場に携わる職員を外部講師として招き、援助のイメージの具体化に努めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均点は73.71点、理想的レベル(80点以上)に達した者は28名、再試対象者は7名であった。昨年より平均点は低下しているが、昨年の平均点(81.9点)が高すぎたともいえる。到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は3.8、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値は3.6であった。他の項目の平均値も3.2～3.5の範囲内にあった。全体的に昨年度より平均値は上昇している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけから見ると本科目は「福祉専門科目」であり、社会福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生がほとんどであり、学生の講義に対する動機付けは非常に高い。履修者の過半数が理想的レベルであることから、内容的には妥当であると考え。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.9、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値はともに3.6であり、前2者の平均値は昨年度より上昇している。他方、「1回30程度以上の準備」を行っていない学生は38名、「1回30分程度以上の復習」を行っていない学生は35名、授業以外の課題に取り組んでいない学生は39名であった。授業の課題以外に学習していない理由として「時間がなかったため」、「テスト前にしようと思った」、「特になかったから」という意見が見られた。また、授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習として「自分で調べたり等した」という回答もあった。学生からの意見について、「日本国憲法からお世話になりました」、「私は法学概論から先生の授業全部とってますよ」、「4年間ありがとうございました」という、1年から4年まで講義担当を有する教員ならではの意見が見られた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、意欲関心のいずれも達成できたと考えている。質問を促す方策については、検討する余地があるが、それを除けば、改善すべき点は特になく考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
介護技術演習	2	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は主に外部講師2名(高齢者介護の実務者)が担当している。授業評価アンケートでは、本科目の受講動機について「関心のある内容である」(100%)となっており、学生の関心・動機は非常に高い状況にあった。授業では教授内容や指導方法について外部講師との連携を密に図った。また、課題レポートを提出させ(計3回)、学生個々の知識・技術の習得度を把握した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成状況を授業評価アンケートにおける学生の到達度評価自己評価から見ると、「知識理解」(DP1)については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(わりにそうだと思う27%、かなりそうだと思う63%)となっており、目標は達成されたと考える。また、「技能表現」(DP5)は「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(わりにそうだと思う27%、かなりそうだと思う63%)であり、これも目標を達成したと考える。しかし、学生の学習量(予習・復習時間0回が各81%、72%、図書館利用なし72.7%)や課題レポート等の内容からは、全体として教育目標が十分達成されたとは言い難い状況も推察された。 以上のことから総じて教育目標はやや達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価からも、教育目標はある程度達成されておりDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 3年次実習前の開講については問題はないと考える。一方で履修人数に関して2018年度は11名だったものの、総じてここ数年は少ない状況にある(2015年度11名、2016年度5名、2017年度3名)。このことから2018年度より開講時期を1年次後期に変更している。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	これまで通り外部講師との連携を密に図り、円滑な授業展開を行いたい。また、学生のモチベーションを維持する観点から、学生の技術の習得度を的確に把握するとともに、出来る限り学生の希望を授業内容に反映していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目における教育目標はある程度達成されたと考える。受講人数が少ない点については、開講時期の変更による対応を行う。入学後のボランティア活動、高齢者領域の実習を希望する学生については、必ず受講するよう周知したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
家庭支援論	4	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機については「必修科目である」71.4%、「資格取得に必要である」42.9%、「関心のある内容である」21.4%、「単位数を確保する」21.4%と、授業への関心にはばらつきがみられた。また、家族を主題として取り扱う科目は3年次まででないため、学習準備性においては実習での個々の経験や各資格ごとの専門科目によって個人差があると考えられる。学生の学習意欲を維持・向上させながら、新たな知識や事象を理解する視点を得ることができるよう、多くの具体的事例や視聴覚教材を用いるなどの工夫を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価においては、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」において、3.8～3.9と比較的高い値であった。レポートの記述内容からも、一定程度の知識理解と事象を理解する視点が得られたと考える。学習量の評価、情報利用において具体的な成果はあまり見られなかったが、他の科目や資格取得において膨大な課題を抱えている中、授業中のディスカッションなどに積極的に参加し、発言や意見の共有を通して各学生の意欲関心が高まったと考えられることから、ある程度達成されたと評価することにした。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は保育士資格取得に必要な科目であると同時に、福祉心理養護教諭コースの学生も履修できる科目として位置づけられており、知識習得と同時に、学生自身が知的好奇心を働かせて学びを深める意欲をもつことにつながるということが求められる科目であると考えられる。このような点において一定程度の成果が得られたことから、内容的には妥当であるとする。 ②DP行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性に問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の回数を重ねるごとに学生間の議論が深まり、様々な意見が出されるようになった。学生の意見表明をしやすくするために、授業の説明の中でポイントを明確にすること、議論の焦点を絞ること、各自の意見を引き出すような工夫を加えることによってさらにディスカッションを深めることができるように改善していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「基本的な知識理解」と「知識に基づく思考判断」においてはある程度達成できたが、「多角的応用的に物事を捉える視点」において思考判断の面では昨年度から課題が残っており、さらに工夫を重ねながら来年度も課題として取り組みたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は、「必須科目である」93.3%、「資格取得に必要なである」33.3%、「単位数を獲得する」6.7%であった。本科目では、相談援助専門職に必要な知識・技術・価値・実践の原則・視点と支援方法などについてロールプレイや事例を用いて学ぶ。受講動機が「必須科目である」が多いため、受講した学生に関心を持ってもらうことが必要である。そのため、オリエンテーションや講義内において、本演習により得られた学びが将来の仕事にどのように活かせるのかについて説明するよう心がけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価では、10項目中6項目において平均値が4点以上であった。特に、本科目における学生が到達すべき行動目標とも関連する「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」4.3点、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.2点、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」および「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」4.1点であった。また、再履修者も0名であった。これらのことから、教育目標は達成されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、カリキュラムマップにおける専門教育科目である。全ての学生が標準レベル以上に達したことから内容は妥当であると考えられる。 ②DPIにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、社会福祉士受験資格取得のための必須科目であるとともに、ヒューマンサービス専門家に必要な知識(DP1)、思考判断(DP2)、技能表現(DP5)を習得する科目である。学生の目標達成状況からDPにおける内容は妥当であると考えられる。 到達度自己評価から、内容的妥当性に問題はないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については、5項目中4項目が平均値4.0点以上であった。特に、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」平均値4.6点、「説明は理解しやすいものであった」平均値4.3点であった。今後も、学生が主体的に参加することができる授業を実施していく。また、近年、本演習の学習状況として、図書館やインターネットの利用を行う学生が少ないことから、図書や雑誌などを学生が活用を促すことを改善策として掲げた。しかしながら、本年度も図書館や雑誌の利用の改善がみられなかったことから、次年度も図書館や雑誌の活用を促す課題を検討することが必要である。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業評価アンケートの結果および成績から、教育目標を達成することができたと考えられた。相談援助専門職に必要な知識・技術・価値・実践の原則・視点と支援方法などについて学ぶ科目であるが、到達度自己評価の「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値が3.8点であり、他の項目に比べ評価が低かった。次年度は、職業倫理や行動規範に関する資料を提示し、学生が職業倫理や行動規範について理解を深めることが出来るように努める。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目及び必修科目となっている。授業評価アンケートにおける学生の受講動機を見ると、「必修科目である」(93.3%)、「資格取得に必要である」(13.3%)、「関心のある内容である」(6.7%)の順になっており、授業への関心・動機が低い状況が見受けられる。 本科目は対人援助職に不可欠な基礎的コミュニケーション能力や面接技法を主な内容としている。したがって、学生の学習への関心・意欲を高められるよう授業展開を工夫した。具体的には、支援事例の検討、ロールプレイ等を活用しながら参加型の授業となるよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度評価から見てみると、「知識理解」(DP1)については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(かなりそうだと思う20.0%、わりにそうだと思う66.7%)とであり、目標を達成したと言える。「思考判断」(DP2)は「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」(かなりそうだと思う13.3%、わりにそうだと思う60.0%)であり、目標をやや達成したと考える。「技能表現」(DP5)は「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(かなりそうだと思う20.0%、わりにそうだと思う66.7%)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(かなりそうだと思う26.7%、わりにそうだと思う53.3%)となっており、目標を達成したと言える。 一方で、学習量の評価(予習・復習の時間、自発的学習)や図書館の利用状況(利用なし93.3%)においては、学習時間の確保や学習意欲の向上の面で不十分な状況にある。 以上のことから全体として十分に教育目標はやや達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 学生の学習意欲向上への課題は見られるものの、授業評価アンケートにおける学生の到達度評価からもDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は対人援助の基礎的技術(特にコミュニケーション技術、面接技術)を修得する科目である。これらは3年次開講の相談援助実習において不可欠な技術であり、CPおよびカリキュラムマップ上に問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	上述のように、学生の受講動機の面からは課題があると言える。また、図書館の利用状況や予習・復習時間から学習量の確保といった課題も推察される。昨年度に引き続き、学生の動機づけや自発的学習態度を促す授業内容・展開を検討する必要がある。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標はある程度達成されたと言える。しかし、学習への動機づけや学習量の確保と言った課題も明らかとなった。こうした状況はここ数年の課題になっているため、改善を要すると思う。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①必修科目であり相談援助演習を担当する教員と同じ内容で演習を行ったが、内容を具体的に描く事が難しい部分については説明を施す等した。 ②復習、予習をした者が1/3おり、また書館でのインターネットを利用し調べ学習をした学生がいた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	相談援助演習が講義科目ではないため、演習時間内において学生との関りが中心となる。その為、到達度自己評価、授業の質評価において平均点は高く、学生が学び得ているものとする。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「まあまあそうだと思う」以上の評価がされ平均値も3.8以上であった。自由記述でも「基礎から教えてもらった」「たくさんの知識を知ることができた」などの意見があり学生にとっての成果が見られたと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	シラバスに沿い、テキストを中心に進めたものの、結果として1セッションごとに講義が 終わらず、理解し辛かったと反省する。しかし、実践的な話に対しての興味を 持ってくれる学生もあり、今後は区切れよく講義を進めていくことにする。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	複数の教員が担当する為、同様のことを行っても同じ評価は出ない。今後指導方法 についての整合性を図りたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	必修科目であり、学生の授業への関心・学習準備性にはばらつきがあると考えられる科目である。一方で、対人援助職をめざす学生にとって重要なコミュニケーション力や面接技法について習得する内容であり、学生の学習意欲を高めると同時に実践の基礎となる力を習得できるよう、ロールプレイの実施、具体的な支援事例を提示してグループディスカッション形式での事例検討など、授業内容と授業方法を工夫した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前年度までと比較すると、到達度自己評価項目の中で「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値が4.2と最も高かった一方で、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値が3.9と低かった。各専門科目において学ぶ知識と実際の事例とを結びつけていくことを重視すると同時に、グループワークやロールプレイング、グループディスカッションなどの場面を多く設定し、それぞれの取り組みの様子や課題シートの記述内容などを総合するとある程度の成果が得られ達成されたと考えるが、学生が「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」実感ももてるような工夫について考えていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は福祉専門科目の導入にあたる科目であり、必修科目である。学生の授業への関心や学習準備性にはばらつきがみられたものの、授業への取り組み、達成状況においてはある一定の成果が得られたことから、内容的には妥当であると判断できる。 ②DP:行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性には問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業の回数を重ねるごとに学生間の議論が深まり、様々な意見が出されるようになった。学生の意見表明をしやすくするために、授業の説明の中でポイントを明確 にすること、議論の焦点を絞ること、各自の意見を引き出すような工夫を加えることによってさらにディスカッションを深めることができるように改善していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成度自己評価の結果と学生の授業への取り組みや提出物から、教育目標はある程度達成できたと考えられる。さらに学生の学びを深める意欲を高め、自発的 学習に結びつくよう工夫していくことを来年度の課題としたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2年次の必修科目であるが、社会福祉士指定科目でもあり、3年次の「相談援助実習」に向けた社会福祉の初歩的な専門的知識、技術を習得するための科目である。受講動機を見てみると、「必修科目である」が100%であるが、「資格取得に必要である」は11.8%、「関心のある内容である」は0.0%に留まっており、相談援助職へのモチベーションの低さがうかがえる。本演習では、グループワークやロールプレイを用いた体験学習や、事例を用いた援助方法の検討を行う。できるだけ実践場面を想定し、ロールプレイを多く取り入れた。またそれらがどのような場面で用いられるのか、視聴覚教材等を用い、実践とのつながりが意識化できるよう試みた。毎時間ごとにはふり返りの時間を設け、学生のコメントを次の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設けた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	達成された	達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均点は72.7点、学生の到達度自己評価の「自分なりの目標を達成した」の平均値は3.6点となっており、課題が残った。全体の成績の底上げのため、学生が達成できるようなレベルの学習課題の設定が必要である。DP1にかかわる「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値はそれぞれ、4.0点、3.9点で、概ね達成されたと考える。次にDP2にかかわる「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値3.9点、3.8点であり、概ね達成されたと判断した。最後にDP5に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値はいずれも3.9点であり、概ね達成されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
---	--------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価では、「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はおらず、平均値3.9-4.1点であった。「学習量の評価」、「情報利用」、「図書館利用」に関しては、いずれも低い回答であった。課題などを通じて、自発的学習をうながしていく必要がある。学生の意見では、「担当の教員によって授業内容に差がある」と2名が記入していた。共通の教材を用いているが、他の教員と授業内容について共有し、検討していく必要がある。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は社会福祉士指定科目でもあり、3年次の「相談援助実習」に向けた社会福祉の初歩的な専門的知識、技術を習得するための科目である。4. に記したように学習達成度の自己評価からは、内容に課題が残った。全体の成績の底上げのため、学生が達成できるようなレベルの学習課題の設定が必要である。6. に記した授業の質評価は概ね問題なかったと考えるが、課題などを通じて自発的学習をうながしていくことと、他の担当教員と授業内容について検討していくことが今後の課題である。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅳ	3	前期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目(3年次対象・選択)の1つであり、相談援助演習Ⅲ(2年次後期)及び相談援助演習Ⅴ(3年次後期)と連動し、教員5名のオムニバス形式で展開している。主な内容は各教員の専門領域(障害福祉、高齢福祉、児童福祉、医療福祉、地域福祉)における事例を活用し、支援内容の検討やグループディスカッション、ロールプレイ等を行っている。 授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「資格取得に必要である」(66.7%)、「必修科目である」(77.8%)が見られ、社会福祉士取得を強く意識した動機がうかがえる。一方で「関心のある内容である」は0%となっており、学生の関心・意欲等を高める授業内容・展開を工夫する必要があると考える。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体の成績は平均80.6点であり、この点では教育目標は達成されたと考える。各DP項目について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」(DP1)については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(かなりそうだと思う33.3%、わりにそうだと思う50.0%)であり、目標は達成されたと考える。「思考判断」(DP2)は「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」(かなりそうだと思う22.2%、わりにそうだと思う61.1%)となっており、目標は達成されたと考える。「意欲関心」(DP3)は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(かなりそうだと思う27.8%、わりにそうだと思う44.4%)であり、目標はやや達成されたと考える。「態度」(DP4)については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(かなりそうだと思う22.2%、わりにそうだと思う55.6%)であり、目標はやや達成されたと考える。「技能表現」(DP5)は、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(かなりそうだと思う22.2%、わりにそうだと思う61.1%)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(かなりそうだと思う27.8%、わりにそうだと思う50.0%)であり、目標はやや達成されたと考える。 この他、学習量の評価(予習0回72.2%、復習0回83.3%)や図書館の利用状況(利用しなかった94.4%)から学生の主体的学習態度という点ではやや課題が残るものの、総じて教育目標はある程度達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 全体の平均点(80.6)や授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価を見ても教育目標はある程度達成されており、DP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラム上の位置づけ 本科目は相談援助の専門的視点や態度、知識・技術を実践的に修得するものである。これらの学びは相談援助実習(3年次)の展開において不可欠であり、本科目のCP及びカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	教育目標はある程度達成されたと考えるものの、学生の学習量の確保や自発的学習態度の涵養という点では課題が明らかとなった。既述の通り、本科目は相談 援助演習Ⅲ・Ⅴと連動しながら各専門領域の援助実践を学ぶ科目である。今後は明らかとなった課題について担当教員と共有し、改善策を検討していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目の教育目標はある程度達成されたと考える。今後も担当教員間の連携を十分に図り、授業内容・展開方法の質の向上を目指したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅳ	3	前期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ソーシャルワーカーの対面にある人々は自分が選ぶものではない。どのような人であっても関わり続ける者であるから、受容し、クライアントに寄り添いその人の問題を整理することが望まれる。よって、演習では短い事例を読み解き、事例の行間にねむる人々の思いを理解出来るよう、感受性高く理解させることに心掛けた。7回を担当し医療領域での困難ケースの事例を読み解き、学生らの価値観や偏見を出させたことが達成度の評価が高かったことに繋がったものと判断する。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が3.8、「自分が学ぼうとしている専門分野」に対する理解ができたことへの評価が3.7以上と高かった。まずもってこの点を学び得てくれたことは良かった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が3.7、「自分が学ぼうとしている専門分野」に対する理解ができたことへの評価が3.7以上と高かった。まずもってこの点を学び得てくれたことは良かった。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	初めて知る病名や重篤な疾患による困難な状況下にある患者についてや支援するソーシャルワーカーの援助内容の良しあしについて気づかなければならいことを考えさせた。学生だから仕方ないとするのではなく、当たり前気づいてくれることを期待しながら説明をしていった。演習のレポートでは学び得たことを書いてくれたので決して学べなかったわけではないと信じる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	事例を検討することに不慣れでありこちらから解説してしまうことが多くなり反省する。今後は学生の主体性を引き出すように取り組む。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅳ	3	前期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目の他のグループとの共通する学習内容に沿って授業を実施した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の評価も概ね達成できている。前半後半で担当教員が変わるためその間の評価であるが、分野が指定されており、学生の評価はレポートと年取参加度に依存する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	相談援助演習とリンクしており妥当であると考えられる。
---	-----------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	演習で学習する内容が指定されており、その点に沿って授業進行も継続したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生のモチベーションに大きく依存するが、導入の際に一定のモチベーションを持つことができるように導きたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅳ	3	前期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は、「資格取得に必要である」82.4%、「必須科目である」52.9%、「関心のある内容である」11.8%であった。本科目は、相談援助の展開とそこで活用される専門的な知識・技術の習得を目指している。相談援助場面について具体的なイメージを抱くことが出来るように、福祉的課題を抱えた人々への相談援助の事例を活用した。また、学生が主体的に学ぶ機会を確保するために、グループワークも実施した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成度自己評価では、10項目中6項目が平均値4.0点以上であった。特に、本科目における学生が到達すべき行動目標と関連する「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」平均値4.2点、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」平均値4.2点「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」平均値4.2点「コミュニケーション力や表現力を高めることが出来た」平均値4.2点であった。また、再履修者は0人であった。これらのことから、全ての学生が標準レベル以上に達しており、教育目標は達成されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、カリキュラムマップにおける専門教育科目である。全ての学生が標準レベル以上に達したことから内容は妥当であると考えられる。 ②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、社会福祉士受験資格取得のための必須科目であるとともに、ヒューマンサービス専門家に必要な知識(DP1)、思考判断(DP2)、意欲関心(DP3)、態度(DP4)、技能表現(DP5)を習得する科目である。学生の目標達成状況からDPにおける内容は妥当であると考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については、5項目中5項目の平均値が4.2点以上であった。特に、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」および「説明は理解しやすいものであった」は、平均値が4.4点であった。また、約半数の学生が図書館の図書および雑誌を利用していた。さらに、自由記述において、「グループワークがあり、他の人の意見が聞けて楽しかった」との意見があげられた。次年度においても学生が主体的に学ぶことができるワークや課題を提示していく。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートの結果および成績から、教育目標を達成することができたと考えられた。次年度においても、学生の学習意欲を高める課題を検討していく。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅳ	3	前期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は3年次の社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目である。学生の受講動機をみてみると、「必修科目である」が50.0%、「資格取得に必要である」が68.8%であった。本演習は相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴと連続しており、学生はすでに相談援助演習Ⅲを履修している。また本演習は「相談援助実習」とも同時進行で行われるため、学習準備性は一定程度あると考えられる。本科目では、福祉の課題を抱えた人々への相談援助の事例を活用し、相談援助の展開とそこで活用される専門的な知識・技術の習得に向けた実技指導を行う。演習ではできるだけ多くの事例を用い、「相談援助実習」で実践的に用いられる社会福祉の視点や職業倫理、援助技術を習得できるような内容となるよう工夫した。また相談援助の実践ではチームアプローチが基本となるため、できるだけグループワークを通して課題解決を導く演習となるよう工夫した。毎時間ごとにはふり返りの時間を設け、学生のコメントに対してフィードバックを行ったり、次回の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設けた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は、79.1点であり、学生の到達度自己評価では、「自分なりの目標を達成した」の平均値が3.5点で、目標の到達には課題が残った。DP1にかかわる「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値はいずれも3.9点であり、目標は達成されたと判断した。DP2にかかわる「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値は3.9点、3.7点、DP3にかかわる「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値は3.8点、DP4にかかわる「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値は3.7点であり、やや達成されたと判断した。DP5にかかわる「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値はいずれも3.9点であり、達成されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性
---	-------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価では、各項目の平均値3.9-4.6点であった。ただ、「説明は理解しやすいものであった」の項目で「少しそうでないと思う」と答えた学生が1名いた。全員にわかりやすい説明を心がけていきたい。学習量の評価をみると、4、5回以上の予習・復習をした学生は4割程度であった。さらに自発的学習をうながしていく必要がある。また図書館利用についても、文献等の利用をうながす工夫が必要である。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目である。4. に記した学習達成度の自己評価からは、授業内容に課題が残った。全体の成績の底上げを図るとともに、学生が目標達成を実感できるようなフィードバックに努めていきたい。また6. 授業の質評価からは、全員にわかりやすい説明を心がけていくことや、自発的学習をうながすことを課題としたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	嶋村 美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神障害者の生活支援システム	2	前期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は、「資格取得に必要」が22/25人となっている。精神保健福祉士の国家試験受験資格の指定科目であるためである。学生は資格取得に必要な科目であることを意識しての受講であることがわかる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85.7点であった。理想的レベル(80点以上)に到達した学生は23名と、全体的な到達度は達成されたと考えている。ただ再試となった学生が2名おり、1名は試験当日に開始時間を間違えたためであるが、もう1名は60点に到達していなかった。今後はさらに個別の理解度を高めるような仕組みが必要であると考え。意欲関心に関しても、毎回の授業の振り返りシートの記入により、高まっていたことがわかるため、達成されたと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門教育科目」の中の精神保健福祉関係科目であり、1年後期から始まる精神保健福祉士コースの科目の制度系科目の積み上げに位置する。精神保健福祉士国家試験受験科目として、受講する学生がほとんどであるため、資格を取得した後の専門職になった時に必要な知識や理解、興味関心を広げ、精神保健福祉士としての視点や役割が理解できるように授業を進めて、2年後期の援助技術系の科目への橋渡しとなっている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業評価においては、授業の課題以外への学習についてしていない学生が15人おり、理由として他の科目の勉強をしていた、時間がなかったという記述のほかは何をしたらよいかわからなかった、といった記述があった。文献を紹介したり課題への取り組みを促したりすることで、具体的に行動できる学生が増えていくのではないかと考えるので、文献紹介や具体的な勉強方法について、学生とやりとりをしながら双方向の情報提供を組み込んで行こうと思う。授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、の項目が平均点3.5で、他の項目に比較して低かった。講義系科目であるため、話し合ったりする機会を多く作れないのが現状ではあるが、さらに事例を考えたり、現状の課題について扱うコマの中で、話し合う機会を作っていくことも検討する必要がある。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	精神保健福祉士を目指す学生がほとんどの受講生をしめる本科目において、学生の勉強への動機づけはある程度学生自身でできていると思われる。さらに具体的事例を提示し、学生が考える機会を増やし、授業外での学習を促すための課題を設定したり、それぞれの学生に合った勉強方法の具体的提示を行うことで、興味関心を広げることでモチベーションを高めより継続して勉強することへの動機づけができるのではないと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	3	前期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であることから、他の社会福祉士や精神保健福祉士の受験資格科目との関連性を考慮して講義を行った。 具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、1, 2年次での開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、定期試験の件、社会福祉士の実習に伴う補講の件、理解を深めるための専門職団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、関連キーワードの確認テストを実施したり、前期のみの講義で、30コマあることから学修状況確認のために、16回目あたりに講義中に中間的な小テストを行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達していた。従って、標準的レベルには達成できているものと思われる。また、定期試験、確認テスト、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に成績評価を行った。 また、80点以上が約355%を占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の受験資格を取得するためだけではなく、幅広く障害福祉、精神保健福祉(メンタルヘルス)、貧困等々の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、精神保健福祉士の国家資格を取得するための専門科目でもあり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。 また、精神保健福祉士の国家試験の受験資格を取得しない学生の受講もあったが、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域に興味があるということで、意欲を感じられた。 学生も成績評価から、一定の到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。 以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	3年連続で、授業の質の評価の「コミュニケーション力や表現力を高めることができることができる」の平均点が低かった。どうしても座学の講義中心であるがゆえ、なかなか困難かとは思いますが、経年度の反省から可能な限り事例等の導入をし、視聴覚的なDVDも含めたアクティブな活動を入れ込む努力を行ったが、工夫が足りなかったのかもしれない。次年度に向けて更なる工夫をすることを課題としたい。学術データベースの利用に関しても、利用の仕方からのインフォメーションを行ったにもかかわらず、昨年同様殆どなされてなく、更なる工夫をしていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するための必須科目であり、精神保健福祉士養成レーンの学生の受講が多かった。2年次での精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて講義を行ったが、2年次に精神保健福祉に関する他の講義等を受講していない学生(進路変更者等や、メンタルヘルスや障害福祉領域、医療福祉領域に関心を持つ者)も受講していることから、前半部分は2年次の復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後期にこの講義のⅡが設定されているので、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供したりDVDの視聴をして検討を行ったが、さらなる方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めたと感じられる。次年度も引き続き、予習復習に関して具体的な指示を出すようにし、理解を深めていく。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	南川 喜代晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神疾患とその治療	3	前期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 受講生の多くが精神保健福祉士を目指している。このことから、精神医学分野の基礎的な知識の提供に加え、将来臨床現場で経験するであろうエピソードを交えることに留意した。 ② 学生に質問を投げかけることで、漫然と聞くだけに終わらないように配慮した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成されなかった				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験の成績からみると70点代が多かった。テキストを丁寧に読みかつ講義で強調した内容を理解して正答ができる問題内容であった。受講生にはやや難しい問題ではなかったかと思われる。問題は、記述問題1つを除いて単なる知識を問うものとした。 一方、授業中の態度は良好であり、理解度を確認するために行った質問には比較的正確な応答があった。 また、頻度は少ないものの質問もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	講義中に精神障害者福祉施設などへの実習があり、体験をレポートとして提出させた。実習がない者については、精神医学関係の書籍の感想文を書かせた。これまで障害者と接する機会が乏しかった学生が多かったが、高齢を含めた障害というものに各人それぞれの思いが見てとれた。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	選択したテキストが医学知識を網羅したものではなく、より臨床的な側面を強調したものであった。臨床においても時に応じて参照できることを念頭において選択した。このため、スライドなどで不足分は補った。国家試験を考えると別の教科書が適切だったかもしれない。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	試験の成績をみると、講義内容は知識提供の比率を高くすべきであったという反省はある。しかし、教科書には書いていない、障害をもって生きるとはどういうことなのか、という点は理解してくれたのではないかと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	谷川 弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
心理学研究法	3	前期	選択	いいえ	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	次の点を配慮して構成している。 ① 科学の多様な研究方法を学習する機会は少ないため、できるだけ身近な例をあげながら解説する。 ② 実際的な課題を提示し、意見を求めたり、可能な範囲でデータ分析を実施しながら進める。 ③ 質的調査、量的調査、実験を簡潔にして、準実験、一事例実験、実践研究の内容を充実させる。 ④ 理解の状況を確認しながら進行を微調整する。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. アウトカム評価:基本的な知識を得るという点では一定の成果を上げたと思われる。 ・総合的な成績の平均値は75.6であった。 ・学生の到達度評価は下記の通りであった。 新たな知識:一昨年3.8⇒昨年3.5⇒今年3.8、理解の視点:3.8⇒3.5⇒3.6、意欲:3.8⇒3.5⇒3.8 目標達成:3.4⇒3.0⇒3.2(学科平均3.4) 2. プロセス評価:履修者が5名に増え、学生相互のやり取りが増えたこともあり、昨年度より参加度は向上した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本学科における心理学の学習の流れの中では、この位置が望ましい。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	下記授業評価にあるように、学生の参加機会や教員との双方向性確保については認知されていた。 授業評価 評価基準が明らか 4. 0 学習範囲や課題が明らか 4. 0 理解しやすい説明 3. 6 学生の参加機会:4. 6 質問の受付:4. 6
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	内容の精選(福祉領域での心理学研究のイメージができる内容など)、授業中の課題提示、質疑のやり取りなどを通して、参加状況は改善してきた。 今後も、学生と双方向のやり取りによって、理解度を向上させることが必要である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉臨床心理演習Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	児童領域で用いられることの多いアセスメントツールである新版K式発達検査・田中ビネーV、WISC-IVに関する講義及び実習を行った。それぞれ理論の説明を行った後、受講者各自が検査者役・被検査者役を取り、検査の施行の仕方・留意点について体験的に学ぶ機会を設けた。被検査者役の学生には、検査中に起こりうる子どもの行動を想定し演じてもらうことで、実践場面に近い場面を設定した。また各検査項目を体験した後に、子どもが検査に回答するにあたり、どのような能力が関与するのかを考えさせる機会を設け、所見の書き方や読み取り方についての視座を与えるように努力した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない		どちらともいえない	どちらともいえない		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	辞退者を抜いた成績の平均値は74.33(±17.10)であり、昨年度に比べ平均値はさほど変わらなかったものの成績のばらつきが大きかったが、これはレポート基準を満たしていなかったことなどを理由として、単位の取得ができなかった者が複数名存在したことが影響したと考えられる。学生の自己評価でも昨年度と比べると、「自分なりの目標を達成した」という項目の平均値が3.4と低かった。しかし「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいという意欲を持つことができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に着ける事が出来た」、、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」といった項目でそれぞれ3.8、3.7、3.7、3.9、4.0と高く評価しており、対人援助職に必要な知識や技術の向上に役立ったと評価していることが見て取れ、本演習の目的になった結果であると理解している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「福祉心理臨床の応用と展開」に位置づけられており、内容的に学科のCPとも合致すると考えられる。受講動機では「単位数を確保する」が57.1%と昨年度と比べて大きく上昇した。これは今回単位を取得できなかった学生の多さの要因になっているものと考えられる。今回受講動機が受動的であった者も多かったことが明らかとなったが、このような学生に対してどの様に動機づけを高めていけばよいのかについては、今後検討の余地があると考えられるため、内容的妥当性および方法的妥当性の再考が必要となろう。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「説明は理解しやすいものであった」4.1、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」4.0、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」4.0といずれも高い平均値であった。演習という形態の授業であること、授業の実施にあたって重点を置いてきたことと合致した結果であると考えている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「福祉心理臨床の専門を学ぶ」ことを目的とした科目として位置づけられているが、学生の到達度評価の(4)～(8)の項目の結果から、学生自身が将来自分が目指す職業に役立つものにとらえている様子がうかがえた。単位を取得できなかった学生を除き、成績の平均値が標準的であるため、これらの学生に対してはその教育目標は達成できたものと考えている。一方、動機づけの低かった学生に対しては、どの様に動機づけを高めていくのかについて検討していく必要があると思われる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
発達心理学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機によると、本授業は、資格取得に必要とした学生37.5%、関心のある内容であるとした学生45.8%、単位数確保のためとした学生45.8%、GPAをあげるための学生4.2%、友人が履修しているためとする学生12.5%から成っていた。 ①本授業は発達の後期にあたる「青年期、成人期、老年期」を取り扱っており、まだ学生が経験したことのない発達段階も含まれていることから、家族などの身の回りの年長者、将来仕事上で遭遇するかもしれない被支援者、そしていずれ自分自身にも訪れるものであることを意識してもらいながら、理論や知識を提供するようにした。 ②青年期、成人期前期・後期、老年期の各時期における、身体・運動・感覚・記憶・認知・知能・家族生活・社会生活等各領域ごとの発達の変化について、データや理論を提示しながら説明を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均点は81.6点であり、90点以上の者が20.7%、80点～89点の者が37.9%、70点～79点の者が41.4%であった。再試験に該当する学生はおらず、すべての学生が標準レベルの学力を修得することができた。学生の到達度自己評価においても、殆どの学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と答えている。 図書館利用者が少なかったのは、本授業が基本的知識を修得する科目であるため、学生が授業内容を重視した結果、図書館等で新たな知識を得る行動に至らなかったのではないかと考えられる。また、学習量の評価では準備0回が15名、復習0回が12名であったが、試験は講義第1回から第15回までの全領域からの出題であり、復習をせずに解答できたとは考えられない。アンケート後の試験前には十分に復習を行ったのではないかと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本授業は、1年後期の発達心理学Ⅰの後に続くものとして、2年前期に設けられている。発達心理学Ⅱは「青年期、成人期、老年期」の発達心理学を学ぶものであり、人間理解の科目として、実習前に設置されていることは妥当であると考えられる。学生も概ね苦勞なく取り組み、授業内容としても2年次前期にふさわしい内容になっていると考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	テキストに沿って進めたが、不足する情報は適宜プリントして配布した。説明には、パワーポイントを用いて、視覚的に整理され分かりやすく伝わるように工夫をしている。授業の質評価では全5項目において「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と答えた者は0名であった。「説明は理解しやすいものであった」「質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」が平均値3.6点となっており、授業の進め方への理解がなされていたと考えられる。 毎授業終了間際に小レポートの提出を求めているが、殆どの学生が授業内容を自分自身の経験や身の回りの他者から得た情報、これまでの知識等の具体的事象と適切に結び付けて考察することができており、これは関心意欲を表現するだけでなく、授業内容の復習にもつながったのではないかと考えられる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね達成できた。 全ての学生が単位修得することができた。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
発達臨床心理学演習	4	前期	選択	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年前期開講科目であり、学生は100%が資格取得に必要であると答えているように、認定心理士の資格を取得することを希望する学生が大半であったため、心理系科目の積み上げにより、論文講読に十分な知識と経験が得られていることを想定した授業展開を行った。 ①前半は、調べてきた論文を発表させ、学生それぞれが感じたことを出し合うことによって、様々な視点から論文を検討することができるようにした。 ②後半は、各学生が自らの興味あるテーマに沿って、共通項を持つ複数の論文を比較検討し、発達臨床心理分野における最近の研究の意義や成果とともに課題は何かを分析し、レポートとしてまとめるようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成されたと思われる。 評価は、Aが100%であった。 積極的に研究論文を読み進めること(意欲関心)、また研究論文を読みその要点について整理し(知識理解)、意見を述べたり発言をすること(思考判断)は概ねできていた。特に、一つ一つの論文についてその要点やその発展性について議論することがどの学生もできていた。 どの学生も授業の準備に30分以上の準備を6回行っており、授業でも集中力を切らすことなく積極的に参加する姿勢を見せていた。授業外においても授業内においても努力がみられ、その成果となる最終レポートの質も非常に高かった。 4年の前期という時期にも関わらず、学生の出席率も全員80%以上であり、積極的な授業参加が成果に結びついたと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	4年前期開講科目であるが、既に基礎的な知識を「発達心理学」や「福祉臨床心理学」のなかで学んでいるため、卒業研究や卒業論文を進めるうえでも、卒業後に役立つ最新の知見を得る上でも、発達臨床心理学に関わる論文に触れることは、妥当であると考えられる。 ①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は、福祉心理臨床の応用科目であり、内容的に妥当である。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 内容的には妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	論文についての発表及びディスカッションは積極的な学生の参加がみられ、十分達成できたと考えられる。 今年度は受講生が2名と少人数であったため十分に学生の意欲を引き出すことができた。 来年度は受講生の人数、受講目的によっては、課題量と出し方の調整、レポートの質の向上に繋がる指導に工夫が必要である可能性がある。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業目標は達成された。 今後受講生の人数が増加した場合も、複数の事例から発達臨床についての理解、発展への展開を多くの学生とともに展開していけるよう、授業の進め方、課題の 提示のあり方の改善を図りたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
障害者心理学	3	前期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	第1回目の授業において、障害と障害のある人に関する知識を把握するために、学生に小レポート(「障害とは?」)を課した。その結果、障害の概念や障害のある人の心理特性・生活に関するイメージが十分にできていない学生も多かったため、それぞれの障害についての定義、及び概念の整理を重点的に行った。また障害があることによって生じる生活上の困難、発達上の諸問題について事例を挙げながら説明し、イメージの具体化を図った。さらに障害者を家族に迎える際、家族と彼らの生活にどのような影響があるのかについて解説することを通して、障害者への包括的な支援の在り方についての視座が得られるよう努力した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	履修放棄した学生を除いた成績の平均値は66.19(±9.40)であった。概ね75点を標準として試験を作成したが、標準的レベルに達している者は約3割と限られていた。学生の評価として「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」4.0、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」3.9とともに好評価であったが、ほとんどの学生が復習をしておらず(0-2回までしかしていない者が82%)、授業以外の学習にも取り組んでいなかった(73%)。以上の事から意識が行動に結びついていないところが懸念材料である。推薦図書等を積極的に紹介したり、ボランティア活動への参加を勧めたりすることで、自己学習に結びつくように促していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は福祉心理臨床の応用と展開の中に位置づけられており、その内容は学科のCPとも合致すると考えられる。学生も「資格取得に必要である」(45.5%)、「関心のある内容である」(54.5%)と考えている者が多いため、内容的妥当性があるものとする。DP及び行動目標から検討するとDP1,2,3いずれも十分に達成されているとはいえず、方法的妥当性の問題があると考えられる。本講義を通して、障害者や彼らの生活、心理特性についての興味関心が高まっているものの、それが行動に結びついていない学生が多いと考えられるため、推薦図書等を積極的に紹介したり、ボランティア活動への参加を勧めたりしていこうと考えている。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.7と比較的高かったことから、講義内容そのものに対する評価はそれほど悪くないと考える。そのため成績の平均値が低かったのは学習量に問題があったのではないかと考えられる。予復習に加え、障害者と積極的にのかかわる機会を増やしていく事を推奨したい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績の平均値が想定していたよりも低かったものの、学生の自己評価の結果から、知識の拡充や意欲の向上に一定の貢献を果たしていると考えられる。しかしほとんどの学生が予復習や授業以外の学習に取り組んでいないなど、意識が行動に結びついていないと考えられるため、上記の方法等で自己学習、実践的な学びの機会の重要性などについて触れていきたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉臨床心理学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義はカウンセリングの構造とそのプロセスを総合的に取扱い、クライアントの状況に合わせたカウンセリングの技法について理解を促すことを目的としている。カウンセリングの諸技法については、社会福祉士の必修科目である「相談援助演習Ⅰ」において学んでいるため、技法そのものについての知識は一定程度はあるものと考えられる。しかしながら、技法の理論的背景や状況に応じた技法の用い方、留意点については相談援助演習Ⅰで網羅することは困難であろうと想定されるため、これらの理解を促していく事に重点を置いて授業を展開した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	辞退者を抜いた成績の平均値は78.75(±7.28)であり標準的なレベルに到達できたと考えられる。学生の自己評価も全ての項目において3.4-3.9と比較的高い数値を示していた。特に「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の3項目については、それぞれ3.7、3.9、3.9と高値が得られた。将来自分が目指す職業に役立つものにとらえている様子がうかがえ、その教育目標は達成できたと評価している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は福祉心理臨床の応用と展開の中に位置づけられており、学科のCPとも合致すると考えられる。学生も「資格取得に必要である」(70.0%)、「関心のある内容である」(50.0%)と考えている者が多いため、学生が対人援助職を目指すうえで必要な知識・技術を得られ、興味を持って授業に臨んだことがうかがえるため、内容的妥当性があるものとする。DP及び行動目標から検討すると、DP1,2,3ともにその達成度は標準以上であると評価しており、内容的にも方法的にも妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	昨年度から継続して検討する課題は特になかった。また授業の質評価について、3.5-4.0と高い数値を示していると考えられるため、教育方法論上大きく変更する 必要はないものと考えられる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は「福祉心理臨床の専門を学ぶ」ことの入り口の科目であるが、学生の到達度評価から、学生自身が「将来自分が目指す職業に役立つもの」とらえている 様子」がうかがえた。また成績の平均値も標準的であるため、その教育目標は達成できたものとらえている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
医学総論	2	前期	必修	いいえ	85

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	医学・医療に関する基本的な知識は、福祉の仕事に必要なだけでなく、自分自身の健康管理にも重要です。主要な疾患にポイントを絞って、社会福祉士の国家試験問題にも関連させて、できるだけ簡潔に解説を行いました。授業中に折に触れて、「命の大切さ」にも言及したつもりです。 また、授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」「資格取得に必要である」が大多数ですが、受講後の自由記載では「福祉の仕事の重要性を改めて学んだ」などに意見もあり、講義をどうして医学・医療に興味をもって下さったことを嬉しく思います。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験と授業貢献度を加味した最終成績の平均値は79.6点(最高点99点、最低点48点)でした。秀:29名、優18名であり、理想的レベル(80点以上)に到達したひとは全体の55.3%でした。60点未満は2名でしたが、2名とも再試験にて合格点でした。最終的に全員が標準レベル(60点以上)に到達したと判断しました。福祉学との直接的な関連が乏しい領域にもかかわらず、期末試験の成績が良かっただけでなく、学生さんの授業態度も良好でした。授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、いずれの観点においても「まあそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数です。皆さんが真面目に勉強した表れだと思います。コミュニケーションや表現力に関する自己評価の達成度が低いのは、座学の系統講義であるのでやむおえないところもあると考えます。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は福祉学科の「専門教育科目」のうち「保健・医療関係科目」に属します。医学・医療に関する基本的な知識は福祉の仕事に必要です。社会福祉士の国家試験にも医学・医療に関する問題が出題されます。 学生さんの受講態度、試験の結果、到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、大部分の項目で「まあそうだと思う」以上の評価を得ていますが、自分の意見をまとめる、発表するなどの学生参加に関する項目は評価が低いです。系統講義ですのでやむおえないところもありますが、今後の課題であると思います。また、学生からの質問に答えることの評価が低い点は大きな反省点です。次年度以降は質問を受け付ける時間を設けます。 自由記述では講義内容やスタイルに肯定的な意見がおおく、次年度も基本的に今年度と同様の形式を継続したいと思います。ただ、教科書をオーバーヘッドで提示したものが見にくかったという意見が多く、(教室の機材の問題もあると思いますが)次年度からは工夫をします。 授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは約半数でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひとは少数でした。今年度は初めてレポートの課題を出したのですが、次年度はもう少し課題を増やすことも検討します。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は福祉学科の学生さんにとっては馴染みが薄い内容であったと思いますが、皆さんが興味を持って積極的に取り組んでくれました。約半数の学生さんが理想的レベルに、全員が標準的レベルに到達することができました。 今後の福祉科目の勉強や、将来に福祉現場で働く際に本科目で学んだことを活用して貰えれば嬉しいです。今年度も福祉学科の学生さんに講義が出来たことに感謝しています。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	樋口 善之

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校保健 I	2	前期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたっては、本科目が養護教諭コースを希望する学生が受講していることから、養護教諭として知っておくべき基本的内容を広く講義することに努めた。特に、保健学習については、保健管理を専門とする養護教諭にとっても、知っておくべき内容であり、また養護教諭自身が保健学習を担当することも期待されていることから、学習指導要領等の内容についての解説を充実させるようにした。 また、授業の準備性を高めるため、開始時に動機付けとして教員採用試験等の状況について説明した。 「学修準備性」については、受講動機を見ると、資格取得と回答したものが24名中21名であり、高い動機が伺えたが、実際に課題以外に取り組んだ学習は6名であった。自由記述において、「ニュースを見る」という学生もみられ、授業初回のガイダンス時に紹介した方法を試みた学生がいた一方で取り組んでいない理由に「何をしたらいいかわからなかったから」という理由も見られた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は、養護教諭になるため基礎的な科目であり、知識理解に重点を置いた。学習到達度の自己評価として、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は4.0(前年度4.3)であり、知識理解は概ね達成できたと考える。また、思考判断・意欲関心について、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」が4.0点(前年度4.2)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」が4.0点(前年度4.3)であり、前年度と比較して、学生自身の到達度自己評価としては若干下がっているが良好な結果であったと考えられる。 一方、技能表現については、講義形式で座学が中心であったことから、達成されたとは言いがたい。学生の自己評価も、「コミュニケーション能力や表現力を高めることができた」が3.4点(前年度3.5)と低くなっていた。継続してこの課題として検討したい。 全体を通して、最終的な成績の平均点は86点、再試験対象者は0名となった。授業の予習復習や指示課題については取り組む姿勢が見られたが、前述の通り、指示された課題以外の学習に取り組むものの割合が、25名中6名と極端少ない。課題を指示するだけでなく、参考図書などを紹介して、自主的な学びを促していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムとして、本科目は養護教諭を希望する学生が受講する選択科目であり、専門教育科目として位置づけられている。また学校保健を専門的に学ぶ導入的な位置づけであることから、講義の内容としては、基礎的な知識の修得と意欲の醸成に重点を置き、成績評価としても記述式の期末試験を課し、学校保健に関する基礎的な知識と共に、自己の考えを述べる設問内容としている。カリキュラムの位置づけとしての内容的妥当性に問題はないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方について、自由記述を見ると「わかりやすい講義でした」「映像も見たりして分かりやすかった」等の評価があったことは今後の励みにしたい。一方で、予習復習に取り組んでいない学生が多く、授業の課題以外の学習については、図書館や学術データベースを利用するものも少なかった(25名中4名)ことから、授業外の自主的な学習を充実させる取り組みが必要であると考えます。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合的評価として、概ね良好であると考えます。本講義を担当して5年目となるが、学校保健は広範な内容を取り扱うため、学校保健Ⅲにつなげられるよう、基礎的な理解に重点をおいた。また前年度から基礎的な知識の修得に加え、発言の機会を増やしたり、ブレインストーミングを取り入れたりするなど、前年度よりも双方向的な授業になるよう心がけたところ、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」に対して「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」者が傾向として減少しており、引き続き、授業改善を進めていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域保健学Ⅱ	4	前期	選択	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習(病院実習)、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては「資格取得に必要である」83.3%、「必須科目である」33.3%、「関心のある科目である」10.0 %であった。このことから、授業では、地域保健学Ⅰで学んだ知識を基礎に、できるだけ具体例を示し、グループワーク、ロールプレイ等を取り入れ、関心を高めるように心がけた。 ②地域保健学Ⅰで学んだ知識を基礎に、授業では、学んだ知識を表現するためにグループワークを取り入れ、学んだことを発表し、知識の定着を行った。 ③昨年度の課題であった事例検討会の方法について、養護実習で経験したことをもとに事例検討会を行い、養護教諭の役割について討論を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は75.7点(±12.5)であった。理想的レベル(80点以上)は、17名であった。 目標別の達成度は知識理解に関しては、65.1%思考判断76.5%、関心意欲75.0%であった。知識理解では、基礎的な問題は発展問題ともに出題したが、発展問題の正答率が低かった。基礎的な知識を活用し、応用して問題を解くことの理解が十分ではなかったと考えられる。授業で基礎的な知識の定着を図りつつ、グループワーク等を通して応用力の定着を図るよう授業構造を改善していきたい。 学生の授業評価においては、知識理解の観点平均値4.1(中央値4.0)、思考判断の観点平均値4.2(中央値4.0)であり、到達度自己評価にはあまり差はないことが示された。関心意欲は平均値4.1(中央値4.0)、職業選択の参考になったと答えた学生は平均値4.0(中央値4.0)であった。一方で、自分なりの目標を達成したと答えた学生の割合が平均値3.8(中央値4.0)と低かった。 これは、学生が知識理解の観点において、応用問題が出された場合に基礎的な知識を活用して解くことに課題があると考えられる。次年度に向けて、基礎知識を活用し応用問題に対応できるように授業構造を改善していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は、「保健・医療関係科目」である。また、養護教諭一種免許状を取得するための「養護実習」の履修要件科目である。受講動機から見ても多くの学生が「資格取得に必要であるため」と83.3%が答えている。また、授業評価では「自分が学ぼうとしている専門分野におけるさまざまな課題を検討する力を得ることができた」平均値4.2(中央値4.0)、「専門分野において学びを深めたいと、意欲を持つことができた」平均値4.1(中央値4.0)と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP、行動面から見ての内容の妥当性 成績評価から見て、知識理解に関する達成度が比較的低かったが、基礎知識を活用し、応用問題に適應するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。また学生の授業の課題以外に取り組んだこととして、授業内容を活かし、教員採用試験対策に取り組んでいた。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生における授業評価については、「新しい知識がたくさん得ることができたので、楽しく学べた。」などの意見がみられた。今年度は、学校現場での実践を想定し、実習で経験した相談事例について、事例検討会を実施した。具体的な事例を通して、実際の事例検討会のシミュレーションを授業の中に取り入れた。さらに、講義でしっかりと基礎知識を定着できるよう、グループワーク等の演習を交え、学校現場で実践できるような力を身につけることができるように授業を改善していきたい。学生が、授業の課題以外に具体的に組み込んだ内容として、授業の内容を活用し、教員採用試験の勉強に生かし学習に取り組んでいた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、養護教諭の一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識理解の面は概ね達成できたが、学校現場では臨機応変に対応することが求められる。基礎的な知識を定着させ、さらに学校現場で活用できるような実践力が身につくように授業構造を改善していきたい。また、今年度から取り入れた事例検討会のシミュレーションをより効果的に授業内容に取り入れていきたい。 また授業内容について基礎的な知識の定着を図るとともに、復習課題を設け応用問題等の提示をし、応用力の養成に取り組んでいきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎看護技術	3	前期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては、「資格取得のために必要である」と89.7%の学生が答えている。しかし「関心のある内容である」が13.8%であり、目標ははっきりしているが、関心が低いという結果であった。そのため看護の基礎技術をできるだけ理解しやすいように講義を行った後、演習において実技のオリエンテーションを行い、さらにグループで具体的な事例を用いて実技演習を行った。 ②基礎看護技術の定着については、授業で学んだ知識や技術を学校現場や病院実習で実践できるために、15コマ目に実技試験を行い、知識や技能の定着を確認した。昨年度の反省を踏まえて、実技練習時間の十分な確保と丁寧な実技指導を心がけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は77.3点(±6.5)であり、再試験対象は0名であった。理想的レベルに(80点以上)に達したものは12名であった。目標別にみると、知識・理解に関しては、70.8%、思考判断に関しては、70.0%、技能・表現に関しては、83.3%であった。 授業評価の指標については、学習の到達度評価の全体評価では、「自分なりの目標を到達した」と回答した学生は平均値3.8(中央値4.0)であった。到達度自己評価において、知識・理解の観点、思考・判断の観点ではともに高く、到達度自己評価にはあまり差がないことが示された。今年度は昨年度の反省を踏まえ、授業の初めに到達度目標について、ルーブリックを示し、学生がイメージしやすいように検討した。次年度は思考判断について、看護の基礎技術を応急処置等にどのようにいかすのか、また、対人援助職としてどのように支援するのかということを課題ととらえ、検討していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップからの位置づけからみて内容的妥当性 本科目は、「保健・医療関係科目」である。また養護教諭一種免許状を取得するための「養護実習」の履修要件科目である。受講動機から見ても多くの学生が、「資格取得に必要であるため」と89.7%が答えている。また、授業評価の到達自己評価において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」平均値4.3(中央値4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」平均値4.4(中央値4.0)「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」平均値4.4(中央値4.0)」と答えている。また、学生も一定以上の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP、行動面目標からみての妥当性 成績評価から「知識理解」に関する達成度が低かった(70.8%)。一方で「技能・表現」に関する到達度は高かった(83.3%)。そのため、授業で学んだ知識理解の定着を図るよう、授業内容を工夫することから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生における授業評価については、「毎週楽しみな授業の一つでした。学ぶことが多くてうれしかったです。」という意見があった。また、課題以外に取り組んだこととして、ペットメイキングの方法を確認し熱心に取り組んでいた。さらに実技実習の時間の確保については学生が十分技術の練習が確保できるように、授業時間の構造を改善していきたい。また、昨年度学生から授業評価の意見のあった模擬保健室を設置していただいた。模擬保健室の活用も考えていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、養護教諭の一種免許状資格取得に必要な科目である。基礎的な知識理解、技能表現についてはあらかじめ達成できたが、思考判断の面では課題が残った。この点は、授業で学んだ知識や技能を思考判断し、実践できるような授業時間の構造を検討し確保できるようにしたい。 さらに、学校現場でに生かすことができるような基礎的な知識や技能が習得できるように、授業内容の改善に努めてきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護臨床実習	3～4	後期・前期	選択	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の要件を満たすための科目である。受講動機としては、「必須科目である」31.3%、「資格取得に必要な科目である」87.5%の学生が答えている。しかし、「関心のある科目である」6.3%であった。このことから目標ははっきりしているが、関心が低いという結果であった。 ②3年生の授業では、2年生での看護学の学習を踏まえ、病院実習における実践的な知識を身につけるために、解剖生理学の復習を授業に取り入れた。また、グループワーク等を取り入れ、具体的な事例を用いて授業を行った。 ③また、4年生の看護臨床実習では病院実習の経験を踏まえて、学校における養護教諭の実践に生かしていけるよう、学校現場で実際行う保健指導の模擬授業、ロールプレイなどを取り入れ知識理解の定着を確認し授業を行った。 ④さらに、昨年の課題であった救急処置の演習について、シラバスを一部修正し、外部講師を招きAEDの使用方法など事例を通したシミュレーションを行い、学校現場の事故対応について授業をおこなった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は81.8点(±7.0)であり、再試験対象者は0名であった。また、理想的レベル(80点以上)は、25名であった。 目標別の達成度は知識理解に関しては、78.0%、思考判断78.0%であったが、技能表現に関しては73.2%であった。態度(DP4)の職業倫理や行動規範については、89.6%であった。この結果から、授業で学んだ基本的なスキルを対人援助職として活用し、表現していくかを課題ととらえ、次年度に向けて検討していきたい。 学生による授業評価においては、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.4(中央値4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」4.3(中央値4.0)であり、知識理解、思考判断についてはあまり差はなかった。また、関心意欲については4.2(中央値4.0)と高く、到達度自己評価において、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深め意欲を持つことができた」平均値4.2(中央値4.0)と答えていた。 このことから、授業で学んだ知識を専門職として表現できるような機会を授業の中で取り入れていくことが考えられる。そのためには具体的な事例を例示し、グループワークやロールプレイをさらに取り入れていくことを検討していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容の妥当性 本科目は、「保健・医療関係科目」である。また、「養護実習」の履修要件科目である。授業準備性の欄で示したように、受講動機から見ても多くの学生が「資格取得に必要なため」と87.5%が答えている。また、授業到達度目標も「自分なりの目標を到達した(平均値4.0中央値4.0)」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた(平均値4.0中央値4.0)」と答えている。また、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標から見ての妥当性 成績評価から、関心意欲・態度は高く、その一方で、技能表現に関する達成度が比較的低かった。そのため、授業で学んだ知識理解、思考判断を授業で表現できるように、授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であるとする。また、学生の授業の課題以外に取り組んだこととして、授業内容を活かし、養護実習や教員採用試験の勉強に取り組んでいた。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生における授業評価については、「難しいことも多くあり、苦しんだこともありましたが、教員採用試験の役に立ったと思います。」また、授業について「毎回熱心に指導してくださり、多くの学びを得ることができました。」、「いろんな演習ができてよかった。」という学生の意見があった。一方で、「病院実習についてもう少し早く詳細を知りたかった。」という意見があった。このことについては、次年度は病院実習について、学生に早めに提起し、準備を整えていきたい。授業については、学校現場で養護教諭として実践に生かせるような具体的な事例を通して、グループワークやロールプレイを取り入れ授業内容の改善していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目である。知識理解、思考判断については概ね達成できたが、技能表現の面では課題が残った。この点は、授業で学んだ知識を専門職として臨機応変に対応できるような技術を習得できるよう、授業内容の改善に努めていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	東 泉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
薬理学	3	前期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本年度の福祉学科における薬理学の受講者は、第一回目の授業で学生に受講動機を訊ねたところ養護教諭を志す学生が大半であったことから、養護教諭に必要な薬理学的知識に重点を置いた講義内容としている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験において本年度は平均点が86点と高く、8割以上が80点以上で望ましい基準に達していた。再試験該当者もいなかった。 学生によって学習量に差は見られたものの、記述式問題において基礎的な用語を用いて適切に説明ができており、受講した学生全員が望ましい基準レベルに達したと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機は、「資格取得に必要である」が76%と多かった。 当該授業の初めに行ったアンケートで、養護教諭を希望する学生は「自らの体験から」と回答した学生が多かったことから、DP1【知識・理解】のうち、CP2「養護教諭として必要な専門的知識を身につける」を基本的な目標としている。 学生による到達度自己評価では「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が他の項目より高かったことから、ある程度の知識は得られたと感じているようである。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	一昨年度、「テスト、レポート、提出物等の評価基準が明らかであった」に 関しての評価がよくなかったため、昨年度からシラバスの内容をあらかじめ 説明するようにしている。 「学習量の評価」では、予習・復習を37～44％程度の学生しか予習・復 習を行っておらず学科平均より低かったことから、次年度は今年度より具 体的に予習・復習内容を指示することとする。 また、使用するテキストは専門的で福祉学科の学生には難しい点がある ことから、本年度は前年度より講義資料を配布するようにした。学生ア ンケートでは、書き込みによる記録を行なった学生の割合の増加や、図 書館の利用の増加が見られ良い傾向にある。しかしながら、理解度をみ ると低い学生がおり、改善の余地がある。次年度もコメント用紙にて学 生の理解度とニーズを把握するよう努める。 「授業中に話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られたか」 については、例年通り評価が他より低かったが、15コマという制約の中 で学生が話し合い、発表したりする機会を作るのは今後も困難である。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本年度は受講した全学生のうち8割が理想的なレベルに達した。 次年度も講義時間外の学習量（予習・復習等）の増加促進を図る。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生学	3	前期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①公衆衛生学は必修科目であり、養護教諭資格取得に必須である。内容が幅広く、勉強意欲関心が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である25%」「資格取得に必要な」89.3%で、「関心のある内容である」10%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。 ③授業で使用する資料を配布し、できるだけわかりやすい内容とした。 ④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増す必要がある。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は85.8(±6.2)点であり、不合格者はいなかった。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達した。 ②「自分なりの目標を達成した」と答えた者は100%で、知識理解、意欲関心については目標が達成されたと考えられる。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は96.6%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も96.6%であった。 ④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったので、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、保健医療関係科目」であり、選択科目である。養教一種免許状に必須である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、関心意欲については目標を達成した。国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.5で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.3であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.3で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.4であった。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、課題解決型学習に力を入れて授業を進めたい。 学生の意見として、特に意見と要望はなかった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解の面で課題は達成できたが、関心意欲については課題を残した。今後、公衆衛生学の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲のさらなる向上を目指していきたい。 授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。 講義スライド、配布物(授業の参考資料)に関しては、充実させ、来年度にむけて授業進捗と内容説明について改善して行きたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子どもの保健Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、学生の動機がそれに該当する。そのため、資格取得のために受講している感が強く、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目である。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の「到達度自己評価」から学生の主観的な達成度は概ね高いと考える。学生の経験として、保健技術を取り上げたが、時間確保が十分できなかった。また、教授内容が多岐にわたるため、学生が授業についていくのに大変な様子が伺える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育内容に深くかかわる科目であることから、関連DPについては妥当であると考え。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP, カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考え。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方は概ね問題ないと考えている。
---	-----------------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。授業進行については、年度の学生の状況を踏まえて、資料提示等に工夫が必要であるとする。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	谷川 弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育の心理学Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・保育の心理学Ⅰでの学びを受け、より実践的な課題を多く取り入れて、子ども理解と保育の理解を進められるように展開してきている。 ・前回からテキストを用意し、授業回数の約8割をテキストを用いた演習とした。 ・ねらい別の評価基準・評価対象・配点を明確にした表を提示した。 ・毎回の流れと作業課題を明確に示して、事前学習を促すようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. アウトカム評価:基本的な目標は達成できたと評価できる。 ・総合成績の平均値は85.6点であった。観点別にみると次の通りであった。 DP1・2:子どもの発達のを捉え、かかわりを構成する視点を説明できる。90% 子どもの発達に関する課題を絞り、収集した情報からかかわりを構成するための視点を獲得することができる。75% DP3:子どもの発達のを捉え、かかわりを構成する視点をさらに深めようとしている。70% DP5:遊び活動を企画、実行し、振り返ることができる。77% DP2:遊び活動を実行する上での安全管理と社会的ルールに則した判断ができる。83% ・授業評価における学習の自己評価は下記のとおりであった。 新たな知識:一昨年度3.7⇒昨年度4.1⇒本年度4.0、理解の視点:3.6⇒3.9⇒4.0、課題検討:3.6⇒3.7⇒4.0、判断3.6⇒3.9⇒4.0、意欲:3.8⇒4.1⇒4.0、技術3.7⇒3.8⇒4.0、表現力3.7⇒4.2⇒4.0 2. プロセス評価:積極的な発表、意見交換、遊び活動の展開ができていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	とくになし
--	-------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度より下記を導入しているが、効果的であった。 ・明確な計画の設定と学生との相談を通しての実行 ・ポストイットイーゼル®を用いての教員からのプレゼンテーションと、学生のプレゼンテーションの実施。 授業の質に関しては、下記のように平均的であった。 評価基準の明確さ 4.0(学科平均3.9) 課題の明確さ 4.0(学科平均4.0) 理解しやすさ 4.0(学科平均3.4) 参加機会 4.0(学科平均4.1) 質問の機会 4.0(学科平均4.0) 予復習は半数が8回中2回以上実施していた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	基本的な目標は達成された。
------------------------------	----------------------

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容 総論	4	前期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、ほぼ全ての学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないが、今年度は具体性の高い内容を設定し、実施に保育現場にも行って演習を行なった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価から全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においても平均値が3.9点を切る項目は無く、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。保育現場での演習のための準備においても、概ね全ての学生が積極的に取り組んでおり、「資格取得に必要な科目」でありながら、意欲関心が非常に高く、主体的な学びの様子が確認された。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、保育内容におけるまとめとなる科目のため、関連DPについては妥当であるとする。また、保育内容の各論を踏まえ実習後に総合的に保育内容について理解する科目として位置付けていることから、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	毎年、4年生の他科目との関連から、課題量が負担になるという意見が多く、今年度は授業内容を変更した。一つの課題にかける時間を増やす代わりに、学外演習を取り入れる等、内容を深めたが、学生の取り組み、成績評価から、一定の成果があったと考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。
------------------------------	----------------------------------

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容 環境	3	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないことと、演習内容として栽培活動があるため、その点については変更しようがない。その他の教授内容については、事例提示だけでなく視聴覚教材を交えての教授を試みた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された			やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価から全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においても平均値が3.8点以上であり、一定の達成度は得られたと考える。ただし、シラバスの活用や、図書館利用については全くなされておらず、その点は授業開始時の説明や、課題提示の方法について検討する必要がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育内容に深くかかわる科目であると同時に具体的に「栽培すること」や「作成すること」といった課題があることから、関連DPについては妥当であると考え。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方は概ね問題ないと考えている。本年度採用した視聴覚教材については、一部学生に居眠りが見られたことから、使用教材については再検討する。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。授業進行については、年度の学生の状況を踏まえて、資料提示等に工夫が必要であるとする。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容 ことば	2	前期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された			やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価から全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においては最も低い値で、平均値が3.4点以上であり、一定の達成度は得られたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育内容に深くかかわる科目であることから、関連DPについては妥当であると考えます。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP, カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考えます。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方は概ね問題ないと考えているが、来期はカリキュラム改定により対象学年が1年生になるので、導入方法を変更する必要があると考えている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。
------------------------------	----------------------------------

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会的養護内容	4	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	3年後期の「社会的養護」の授業を踏まえ、各回の課題内容の整理をノートとして作成することを求めた。また、担当者を定め各課題について報告し討議する時間を設け、内容の実践的学習を深化させた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回の報告やノート作成内容、討議内容から概ね達成できたと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	社会的養護関係での福祉施設等で実習をした学生もあり、また4年次の実習で体験する学生の準備性からみても内容についての想像がより具体的であることもあり概ね妥当と考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	事前学習(課題整理のためのノート作成や報告準備など)概ね学生が準備に取り組んでおり、授業進行もスムーズであった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	少人数の授業であるが、学生自身が準備してきていること、最終学年で過去の学習経験があること、また、実習等で体験していること、夏季に保育実習で社会的養 護関係施設にて実習が予定されている学生もあり、授業参加度を高めていたと考えられる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育相談支援	4	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	昨年度より担当し始めた科目であるが、その印象から開講時期が四年次ということもあり、一定の相談援助の技術・知識は持っているものと思われた。しかし、事例を味わい、より深く対象を理解する・様々な可能性を探るといった経験は少ないようであった。近年、本邦は少子高齢化の社会の中で核家族化や都市化の進行、女性の社会進出が増加し、保育のニーズも多様化するようになってきた。また地域や家庭の子育て機能が低下し、子育てをする保護者の孤立感・育児不安が増大し手来ているとも言われ、それらの対応に保育所の保育士が携わる事が期待されるようになった。そこで本演習では、様々な相談援助の専門家の中でも「保育士の専門性を活かした支援の方法」について、学びを深められるよう授業を展開し、グループ活動・ディスカッションを行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は79.93(±6.89)であり、昨年度69.48(±7.07)に比べて10点以上上昇した。4年生前期の科目であり、職業選択の参考にするための科目と言うよりは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.1、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」3.8等、これまで学んだ知識・技術に加えて新たな視点を提供したという点で貢献できたのではないかと考えられる。学習到達度の自己評価は3.8-4.3、授業の質評価も4.2-4.5のrangeにあり、昨年度と比べた成績の平均値の上昇等も含めて考えると、本演習の目標は達成できたと評価できる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「保育関係科目」に位置しており、学科のCPとも合致した授業内容となっている。学生は本科目を「必修科目である」91.7%、「資格取得に必要である」58.3%と評価しており、「関心のある内容」と答えた学生は16.7%に過ぎなかった。しかし先述のように、学生は自己の学習到達度を高く評価しており、実際学生のグループディスカッションも活発であり、DP及び行動目標から検討すると、DP2,3ともにその達成度は標準以上であると評価しており、内容的にも方法的にも妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前述のように授業の質について非常に高い評価を得ており、学生のニーズに合った教育内容であったと評価している。授業時間中に感想等を聞いてみると、「一つの事例や現象について、これだけ深く考えたことはなかった」といったものも見られ、成績の平均値についても昨年度比10点以上を示しているため、方法論的妥当性も担保できているものと捉えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	14名中7名が少なくとも1回以上欠席していたが、欠席理由を聞いてみると実習や就職活動によるものであることが多かった。また昨年度と比べると、欠席にあたり提出物を事前に提出してくる学生もいたため、授業に対する積極性が高くなったことが印象的であった。一方昨年度報告していた教員側の課題については、事例検討の時間やグループディスカッションの時間配分等について調整していった。成績の平均値の向上や学生の積極的態度は、こうした方法論上の改善の影響もあると思われるため、今後も学生のレディネスとモチベーションを鑑みながら授業展開していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅰ	3	三期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、ほぼ全ての学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うというよりは、必然的に受講している科目である。 学生の受講動機に関わらず、保育実習に行くための準備科目であるため、社会人としての基礎的なマナーから実習に必要な書類作成、実習の心がけ、基本的な保育技術について教授する準備を整えた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価から、全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においても平均値が4.2点以上であり、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。保育実習後の施設からの評価、日誌をはじめとする書類においても良好であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、学内の学びを総合的に実践の場で学ぶ機会であるため、上級学年での開講の必要がある。その点を踏まえて、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であると考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	実習に行くために必要な知識・技術を身に着けるための科目であるため、必要な教授内容を系統的に配置し、進行した。講義だけでは、学生の理解に差が出るため、学習進度に合わせて4名の教員で授業時間外に個別に対応し、全体の授業進行を均一に保った。しかし、基本的な文章能力といった点については、学生間の差が大きく、個別対応の在り方等毎年の課題である。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	実習先からの評価、成績評価から概ね教育目標は達成できていると考える。学生の学力差に対する対応が今後の課題である。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
行動科学	2	前期	選択	はい	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうことにしている。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今年はかなりの大人数の講義だった。これに対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。ただやはり教室環境が狭い印象であり学生には申し訳なかった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	講義の経験は多いけれど、今年度も達成状況の総括的評価は3段階A,B,C評価のBの中であつたように思う。授業者の体調、意欲、内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。本年度もその数においてやはりBの上であつた。努力を重ねたい。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	シラバスで年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶える学生が幾人か存在する。注意の仕方に工夫をくわ えてきたが、全員をかなりの集中度に持っていくのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。 がんばりたいと思う。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	講義の道を究めるのは厳しい。今年度の達成状況の総括的評価はやはり3段階A,B,C評価のBの中ではなかろうか。授業はアートというのが私の持論であるが、授 業者の体調、意欲。内容の鮮度、それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができな い場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ね たい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生活と環境	2	前期	選択	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講生の75%が3年生であり、実習で講義を欠席することがある。その補てんとして講義の最初に前回までの講義の復習を行う時間を設けた。また、習熟度に差が出ないよう、重要な箇所は繰り返し説明し、その際に質問を受ける時間を設けた。 ②今年度は栄養学科の学生も受講する合同講義になったため、講義内容に食料問題などを含む内容を新たに取り入れ幅を持たせた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は83点(±6.0)であり、受講生全員が標準的レベルに達していた。また、受講生の75%が理想的レベルに達していた。 ②知識理解の達成度は85%、”学生の知識理解の到達度自己評価の平均値は4.0”、”知識を確認、修正、新たに得ることができたは4.3”であった。意欲関心についての達成度は80%で、”事象(自然・人・社会)を理解する視点や考え方を得ることができたは4.0”であった。 ③授業の質評価は、”学習の範囲・課題の明確さ4.3”、”話し合う・発表する4.3”、”質問を受け付け、答える機会があった4.0”と、実習による欠席を補てんする取り組みを行ったが、一応の成果はあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目では身近な生活の中から自然と環境および環境問題に関心をもち地球規模の環境問題へと学びを深めていく。この内容は、一般教養としての基礎知識を培い幅広い教養を身につけるという科目の位置づけとしては妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 知識理解、関心意欲の達成度は、それぞれ85%、80%であり、上記に記載した到達度自己評価からも本科目のDPIに関連する項目は4.0以上と高く、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	上記に記載した学生の到達度自己評価や質評価から授業改善の効果は出ていると思われる。特に今年度は、実習に伴う欠席者を意識し、授業の振り返りを毎時間 実施し、質問を受ける場を積極的に設けたのは良かった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	一般教養科目としての本科目の位置づけから、一般教養と基礎知識を培うという目標は達成できた。昨年度から3年生受講生の実習に伴う欠席に対し、どう対処 するかは課題であったが、それに対する方策には一応の効果があった。一方、図書館利用率は高いが、文献データベース検索に至らなかったことについては課題 が残った。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	三浦 元喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報の表現法	2	前期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたっては、情報の表現や構成に関する知識に加え、技能をしっかりと身につけてもらうことに重点をおいている。 ただし、単なるPowerpointやExcelの使い方では終わるのではなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうため画像を含めたWebページの作成や、簡単なプログラミングをとりいれている。 知識定着に関しては、授業内で小テストを頻繁に実施したり、期末の確認テストを行ったりしている。また、講義での説明資料をすべてWeb上で閲覧できるようにしている。 技能定着については、授業内での円滑な演習と、授業時間外の活動がシームレスに行いやすいように、Webブラウザ上での演習環境を提供している。 また、Powerpoint/Excel/Photoshop Elementsの課題演習と、Webページ作成/Processingプログラミング作品作成のグループ活動および発表会を実施した。 受講生の6割強が、受講動機として「資格取得に必要である」ことを挙げている。あと、「単位数確保」「関心のある内容」が主要な動機である。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価において、「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均点が3.7、中央値も4.0と、高いことから、教育目標は達成されたといえる。 単なるPowerpointやExcelの使い方では終わるのではなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうことを狙っていることから比較的難易度が高い講義内容であったが、ほとんどの到達度自己評価の中央値は、5段階評価の3番目にあることから、受講者は学習内容について、ある程度の自信をもつことができたといえる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Processingプログラミング導入によって、コンピュータで扱える色の特性や、図形による表現を体験的に学習できるため、利点があると考えている。 アニメーションやインタラクティブな表現については、ある程度高度な知識が必要となるが、学生は興味をもって、自発的に学習や演習に取り組んでいたため、今後ぜひ継続していきたい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」において、すべての項目の中央値が3.0以上であることから、 授業の進め方に問題はないと言える。平成30年度から、一部の資料は紙で 配布し、学生がメモをとったり参照しやすいようにした。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	* 総括的評価 * 比較的難易度の高い内容を扱っているが、学生に講義の方針や意図が十分に伝わり、 自信につながっていることが、自己評価の結果に現れている。 * 課題 * 受講者のコンピュータスキルやリテラシーのばらつきによる影響をなるべく 排除していきたい。H30年度は、プログラミングエディタにおいて自動補完 機能を導入し、入力時の負担を軽減できるようにした。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代と教育	2	前期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は単位のために19人中15人。興味関心が19人中10人であった。授業は歴史的事例の検討が中心となるため、いかに興味を持ってもらうかが授業準備段階のねらいであった。 そのために、導入部分に学生の体験を結びつける現代的な遊びの特徴を設置した。男の子の遊び、女の子の遊びを比較しながらその特徴をとらえ、共通点と相違点から見る現代の遊びの様相を大まかに理解させる教材を工夫した。今期は「妖怪ウォッチ」のような大ヒットした遊びがないため、ポスト妖怪ウォッチについて新しいテクノロジーとの関連から紹介し、学生の遊び体験とどのような点が変化してきたかに興味を持たせ、その後の過去に遡った遊び文化の歴史的展開への土台作りを心がけた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全学科平均点75.5点。福祉学科平均点80点。秀6、優6、良5、可3。 知識理解は十分満足できるレベルである。6割程度が成績上位層であり、他学科と比較しても良好であった。 欠席はそれほど多くなかったものの、遅刻を繰り返す学生が4名いた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	例年の傾向からすると受講動機の側面からいえば、単位のために受講しているところから出発している。しかし、学科の位置づけからすると、社会/文化/歴史に触れることは不可欠である。また、教職課程在籍者も含まれるため、教職教養としての意味も大きい。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今回の好成績の要因として、受講動機が興味関心にある者が多かった点。授業中の態度が良好であることが挙げられる。 今回の授業改善のポイントとして、出題する問題形式の形で授業内容の理解をするよう促した点にある。授業を行った内容について、例えばこのような問われ方をするというまとめプリントを配布した。このやり方は例年も行っているが、今回はまとめプリントを記憶しても役に立たず、プリント内容をこの程度まで理解していれば問題文が変わっても対応できるし、そのような理解の仕方が必要だという解説を行った。 具体的イメージにくい箇所については例年通り、以下の様な取り組みを行った。 (1)江戸時代の解説という高校の教科書的な補足ではなく、テーマと関連して理解すべき時代の特徴を代表するエピソードなどを通じて理解を深める教材を準備する。(2)画像、動画、実物教材など、見て聞いて触れる学習機会を増やす。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	テストにはただ資料やレジュメを見直すだけでは対応できず、授業中の解説等を聞き、ノートを取らないと対応できない問題も複数含まれていた。その上での好成績という結果は、学生がある程度授業に集中してくれたことが原因だろう。今後とも学生の興味関心を喚起できる授業を心がけたい。 次年度も今年度同様の理解度が期待できるとすれば(興味関心という動機づけが必要だと思われる)、現代社会の理解のスキルを向上させるというより応用的な側面にも働きかけたい。 遅刻が目立つ者4名のうち3名が可であり、この層が改善されれば全員良以上の成績を修める可能性があった。逆に言えば、授業をきちんと受講しなければ高得点が難しい試験であったので、今後も適切な測定基準を準備したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	十時 康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語Ⅲ	2	前期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講理由はほぼすべて「必修科目だから」というもので、英語に対して積極的な理由をもって受講しているわけではない。初回の授業時でのアンケートでも英語は好きでないし、得意でもないという意見が大半であった。 このような状況であったので、あまり高い要求はせず、語彙の習得と英語の語順理解という基礎理解に努めて授業を進めていった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	3において述べたように、語彙習得と英語の語順理解という2点を授業終了時に身につけておいてほしい知識とした。期末試験でもそれらの領域の問題を多くした。試験結果をみてもその2点の問題についてはよくできており、7割程度の得点率であったため上記のように評価をした。 それでも学生の自己評価にある専門分野との関連ではあまり高い評価ではなかったため全体としては「やや達成された」という評価にとどめた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	テキストは、福祉関連の内容のものであったが、英語学習に対して根強い苦手意識があり、英語力そのものも初級～中級の状態であるため、内容そのものにまで関心が向かないようだ。 内容へ関心を持たせるために、テキストのレベルを下げる必要を感じた。 内容妥当性については一定程度あるという評価を下したい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	単語学習ではオンラインのアプリを使用し、受講生にも無料のID作成を してもらって活用した。これはなかなか好評であったようだから継続して 使用したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生のレベルに合わせた英語で書かれていて、かつ専門分野との関連 のあるテキストを探す。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
高齢者支援学Ⅰ	2	前期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、本学、九州歯科大学、西日本工業の3大学(5学科)による合同授業である。学生の受講動機には「関心のある内容である」(45.0%)、「単位数を確保する」(65.0%)が見られ、やや学習意欲の低さが伺える。授業内容はアクティブ高齢者の支援について講義(4コマ)とPBL(事例検討4コマ)を行うものである。講義では介護保険制度について教授し、その中で福祉学科以外の学生が内容を理解しやすいよう解説や提示資料を工夫した。また、3大学の学生が多職種連携の視点から議論を深められるよう事例作成を工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成されなかった	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の教育目標について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」(DP1)については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(わりにそうだと思う23.8%、かなりそうだと思う57.1%)であり、目標を達成できたと言える。思考判断(DP2)については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」(わりにそうだと思う42.9%、かなりそうだと思う38.1%)であり、達成できたと言える。「意欲関心」(DP3)については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(わりにそうだと思う42.9%、かなりそうだと思う42.9%)であり、達成できたと言える。「態度」(DP4)については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(わりにそうだと思う38.1%、かなりそうだと思う28.6%)であり、やや達成できなかったと言える。「技能表現」(DP5)については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要とする技術を身につけることができた」(わりにそうだと思う42.9%、かなりそうだと思う28.6%)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(わりにそうだと思う33.3%、かなりそうだと思う42.9%)となり、目標をある程度達成できたと考える。 以上、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価を見ても、本科目の教育目標はある程度達成できたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価の結果からも、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は3大学(5学科)の学生が各分野の専門性に基づき協働でPBLに取り組むものであり、本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートにおける「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」の回答は「していない」(95.0%)であった。また、「この授業ではインターネットのホームページを検索し、利用した」の回答は「利用した」(42.9%)であった。本科目はPBL形式であり、特に学生の主体的学習態度が求められる。今後はPBLで活用できるネット情報を具体的に提示することで、学生の学習意欲をさらに高めることができると思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目の教育目標はある程度達成されたと考えるが、学生の主体的学習態度の涵養という点では課題があると言える。本科目は大学の枠を超えて複数の教員が担当しており、教員間の連携が特に重要になる。今後も授業内容や展開方法等について教員間で十分に共有し、より教育効果の高い授業を目指したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①昨年の実績及び教職をめぐる現況から、今回も視聴覚教材を活用して「子どもの心をつかむ」技法について学ばせたが、教材のblue-rayディスクが使えず、急遽ちがう教材を使うことになった。AV機器のブラッシュアップをお願いしたい。 ②前年度の講義の感触を踏まえて、講義内容をわかりやすく調整している。 ③小論文形式でふり返りの質を深めることとした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績の平均値は81.38であり、全体の平均値80.69を上回った。 ②到達度の自己評価は全項目の中央値が3.0が多く、全項目の平均は3.3～3.6であった。全体に「まあまあ」という自己評価なのであろう。それは教職に対する意欲が高くて納得していないのか、低くて元気が出ないのか、そこはわからない。 ③授業の質評価は各項目の平均値が3.4～3.5であり、中央値は全て3.0であった。学生のモラルを向上させる努力が必要だろう。 ④半分くらいの学生がたまに予復習をしているようなので、もう少し刺激してみたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①教職課程なのでカリキュラム上の位置づけは問題ないのだが、受講動機に「単位数の確保」に1名書き込んでいる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示ください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①「授業の質評価」から判断してもう少し丁寧な説明をするように心がけたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

①もっとわかりやすい授業改善に取り組まなくてはいけないだろう。

②blue-rayディスクが使えるようにしてほしい。

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	平和で幸せな地域の実現と、より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むよう学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出来るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成の評価の根拠は定期試験の内容である。しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよく読んで内容を理解していることがわかる。(客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる)授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	昨年度の取り組みでもあったが学生が達成すべき目標を4点シラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	言葉には力があるけれども「映像は100の言葉に勝る」と思われる。スマホ時代の真ん中 にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解 している。その為に毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アン ケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来 るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新 たな方法を試みてみたいと考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	昨年同様に概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多 様性と個別化を体現している現代の学生のニーズに対応してグループワーク や発見学習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出してい く必要性を痛感している。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	大庭 正美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
特別活動論	3	前期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学習指導要領における特別活動の位置づけや特質、内容などについて基本的な知識理解を中心にしながら、小中学校での指導の実際についても取り扱い、実践的な態度の育成に資する授業に努めた。そのため、できるだけ実践事例の映像資料を活用していった。 ②授業の終末には授業内容を振り返り、シートに記入させるようにした。そこで出された気づきや疑問などを次の授業の導入で取り扱い、再確認できるようにするとともに、深い学びにつながるように努めた。 ③授業の内容に応じて、学生自身の学校での経験を想起させ、重ねて考えることができるように促した。そうすることで、理論と実践がつながりやすいようにし、就職後のイメージをもちながら学修できるよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業後の振り返りシートの内容及び試験の結果をもとに判定したトータルの成績において、70点以上が30名中24名、そのうち80点以上が5名で、90点以上が2名であった。また、到達度自己評価においては、すべての項目で4.0を下まわっており、そのうち「知識の確認・修正」の項目は平均3.8、「的確な判断」の項目が3.5、「専門的な技術」で3.7あった。 授業中のノート記録や振り返りシート記述内容は授業が進むに従って充実していったことなどから、学生の学びが徐々に深化していったものと思われる。したがって各項目及び全体を通して「やや達成された」と判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	卒業後、小中学校の養護教諭をめざす学生にとって、健康教育や学校経営と密接につながっている特別活動の指導内容は非常に重要である。そのような点から、学生の自己評価での項目「専門分野の課題を検討する力」「学びを深めたい意欲」など、比較的高評価の項目があるとともに、各授業後の振り返りシートの記述内容などから、本科目の内容的な妥当性は高いと判断できる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」項目の(5)の評価が比較的高かったが、学生からの質問に答えたり、考察に助言をしたりする点で成果が上がったと考える。見やすいレジュメや資料、学校現場の実際場面がイメージしやすくなる映像資料などを活用するなど、学生の意見を受けながら授業改善に努めた。今後も、その方針で授業を進めていきたい。 ただ、テスト等の評価基準があいまいであったこと、図書館利用や事前準備などの評価から学生の自発的な学修が十分とはいえなかったこと、演習的な内容が少なかったことなど、今後改善していく必要がある点だと考えている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	将来、養護教諭をする可能性のある学生であるため、健康教育との関連や保健指導との関連などを想定しながら授業を進めていった。特に、教育課程における特別活動の位置づけや役割など、特別活動の教育的な意義については繰り返し指導するように進めた。その結果、毎回の授業後の振り返りシートの記述などから、教職に対する意欲が向上していったことが読み取れた。 特別活動全体の内容に触れ、繰り返しながら取り扱った内容もあり、指導案作成などの演習に費やす時間が十分とはいい難かった。教職課程の授業としてより実践的な成果を求めるためには、シラバスの構成とともに、一単位時間の授業展開に関しても工夫改善の余地があると考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①前年度にもっと実際の授業について考えさせる内容にブラッシュアップしたかったので、授業案の考案や模擬授業の実施などに時間をかけるようシラバスを変更した。 ②その分理論的な部分を精選した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない	やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績の平均は84.8であり、全体の平均84.55と変わらない。特に有意差があるわけではない。 ②到達度自己評価は各項目において平均が3.3～3.7であり、大半が「まあまあ」としていた。中央値もほぼ3.0であった。不満を持っている学生はいなかったが3.0は不満予備軍なので達成感のある内容にしていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①教職課程なのでカリキュラム上の問題はない
--	-----------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価は各項目の平均が3.3～3.6であり、中央値も3.0であった。学生は講義の質に満足していないと判断する。おそらく授業研究の内容にまだ課題があるのではないだろうか。ただ、一度やらせるだけではイベントになってしまうので、注意事項を一言入れば学生を褒める時間がないし、褒めるのも難しい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①授業研究は回ごとにステップアップできるように講義の設計を改善したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道德教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道德教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道德教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	福祉学科平均点75.8点。全学科平均点72.4点。秀6人、優6人、良16人、可3人、不可0人。平均点は一昨年レベルに回復し、昨年度16%程度いた不可も本年度は0人であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道德教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	本年度の最も大きな改善点は不可がいなかったことである。また平均点も5点ほど上昇し、秀の割合も倍増している。 授業において最低基準をクリアするポイントはプリントに明記するとともに、重要ポイントは繰り返し説明してきたが、その内容をきちんと理解して授業参加した結果と 考えられる。ただし、優と比べて良の割合が高く、より質の高い学習指導案の作成に向けた取り組みを充実させたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本年度は最低基準のクリアという第一目標は達成されたが、良から優にまたがる中間層が成績上位層にする点に課題が残った。 次年度は本年度同様、全員合格を目指すとともに、より質の高い学習指導案の形で授業成果がアウトプットできるような授業を行いたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	渡邊 義隆

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生徒指導論	3	前期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学生の授業評価アンケートによると、受講動機として「必修教科」21.4%「資格に必要」96.44%となっており、教員免許や資格取得に向けた意識が高いことが推察される。 ②授業にあたっては、基本的な教育法規、特に生徒指導に関することを中心に学習させた。最も重視したことは学生が教師として教壇に立った時にすぐに必要となる対応・指導・その後の見守りを実際の事例を中心に授業を展開した。 ③今年度は生徒が授業に参加するための課題等を与えることなく生徒の自主性に任した対応であったため学習量がほとんどない状況であった。次年度の反省として次の授業に向けての準備、授業後の振り返り等を充実させたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①(目標を達成した)の項目では、同科の受講生28名中「かなり」「わりに」「まあまあ」すべてが肯定的回答であった。このことから目標に達したと言える。 ②学生の(知識)(理解)に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「1名、16名、11名」「2名、17名、9名」で100%であり、否定的回答は0名であった。このことから目標に達したと言える。 ③学生の思考判断に関する(検討する力)(判断する力)それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「6名、14名、8名」「3名、10名、14名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことから同様に目標に達したと言える。 ④同じく意欲関心に関する(意欲)では肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「6名、12名、10名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が意欲をもって授業に参加したと言える。 ⑤さらに技能表現に関する(技術)と(コミュニケーション、表現力)の習得では、肯定的回答は、それぞれ「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「4名、10名、14名」「2名、9名、17名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が技能表現を習得できたと言える。 ⑥(職業倫理)や(職業選択)での肯定的回答は、それぞれ「3名、12名、13名」「4名、13名、11名」で100%であり否定的回答は0名であった。授業の中で非常に大切な項目であり力を入れた分野であり満足なけっかとなった。 すべてにおいて否定的回答は0名であったことは学校現場の具体的事例を中心に教師が様々な状況に対してどのように対応するか、学習できたと言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CPカリキュラムマップ上における本科目の位置付けから見ての内容の妥当性としては、受講動機でも上がっているように「必修教科」21.4%「資格に必要」96.44%となっており、教員免許の取得に向けた受講であり学生の志向に応えるために、まさに現場の生の状況に触れることにより対応や指導を学ぶことができた授業であり妥当性があるものと思われる。 「学習到達度の自己評価」ではすべての項目で肯定的回答が100%であり授業の到達度の目標が達成できたと言える。 自由記述では学生が教員を目指すにあたり良い職業選択ができるよう授業を進めてきたことから、少数ではあるが、担当教員への感謝の記述などをいただき教員を目指して努力する姿に応援できるよう来年度に向けての励みになった。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①学生の担当教員への意見は「実体験話などがあり、すぐわかりやすくおもしろかったというものであった。 ②授業の質評価についたはすべての項目で肯定的な回答となった。 ③学習量の評価については今年度予習や課題を与えることなく自主性に任せた。結果としては十分なものとは言えず来年度に向けての反省となった。 ④情報機器や図書館の活用もなかった点についても反省するものであった。来年度は学生が主体的に活動するような授業も考えていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	総合評価として、概ね良好であった。しかし課題も多くあった。昨今、教師という職業は非常に大変である職業のように言われているが、子供たちの成長する姿、人生の一部分であるが関わることのできる素晴らしい職業であることを、学生に伝えることができたのではないかと総合評価を感じる事ができた。 来年度は学生が主体的に授業に参加できるよう考えてまいりたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学(旧約聖書)	1	前期	必修	はい	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 学生の授業評価アンケート(学科全体67名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが67名で100%であって、他の動機は「単位数確保」が11.9%、「資格取得」と「関心」とさらに「GPAアップ」が1.5%であった。キリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示する。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「15、22、27」で91.43%であり、否定的回答は「少しそう思わない」「全くそう思わない」の順に「6、0」で8.57%であった。② 「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、肯定的回答は「6、21、37」で91.431%であり、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられ、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや可能な場合には福祉と関係のある例を用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫した。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績を見ると、平均値は78.12点であり、再試対象は7名であった。分布的には、90点以上が15.79%、89～80点が38.16%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は53.95%であり、79～70点が28.95%、69～60点が7.90%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは36.84%であった。成績で見る限り、知識理解はほぼ目標に達した。② 学生の達成自己評価を見ると、＜知識＞＜理解＞に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「10、32、27」と「10、30、29」で、いずれも98.57%で、否定的回答は「0、0」と「1、0」で、0%と1.43%で、前者には無回答が1、すなわち1.43%あった。③ 専門分野での＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「6、19、39」と「7、18、38」で91.43%と9%であったのに対し、否定的回答は「4、2」と「6、1」で8.57%と10%であった。＜意欲＞に関し肯定的回答は「5、21、36」で88.57%であり、否定的回答は「6、1」で10%であった。④ さらに専門分野の＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得に関しては、肯定的回答は「4、17、39」と「2、18、37」で85.71%と81.43%であったのに対し、否定的回答は「6、3」と「12、1」で12.86%と18.57%であった。⑤ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「4、19、38」で87.14%であったのに対して否定的回答は「8、1」で1.29%であった。⑥ ＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「5、12、30」で67.14%であったのに対し、否定的回答は「19、4」で32.86%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、＜知識＞＜理解＞では0%と1.43%であった。また、専門分野の学習においても＜検討する力＞の学生の達成自己評価の否定的回答の数値は8.57%と1桁であった。しかし、＜判断する力＞と＜意欲＞とは共に10%であった。また、＜技術＞＜コミュニケーション、表現力＞習得ではそれぞれ12.86%と18.57%であった。＜倫理・規範＞に関しても技術と同様に12.86%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞は否定的回答は0%と1.43%であり、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための＜倫理・規範＞の分野では否定的回答が712.86%であった。さらに、専門分野の課題解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞＜判断する力＞、及び社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける＜意欲＞では、否定的回答はそれぞれ、8.57%、10%、10%であった。＜技術＞の習得という専門分野と、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関しても否定的回答はそれぞれ12.86%、18.57%であった。③以上から、CPの位置づけから肯定的回答は、技能表現の分野でも80%台であり、非専門と非技能表現の分野では80%乃至90%台であることから、授業内容は妥当であると考え。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ、非専門と非技能表現の分野としての授業内容は妥当であると考え。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員へ要望としては、授業の終わり頃になると「早口」となり聞きづらく、「板書の字」が読みづらくなることの2点が挙げられている。この点は授業時間の配分の工夫により改善したい。また、「復習をして欲しい」という要望も出されており、適宜、対応したい。② 学習量の評価を見ると、＜1回30分以上の予・復習＞6回がいずれも15.71%であり、1回以上で6回未満の学生もそれぞれ51.43%と61.43%で、予・復習のどちらか30分1回以上の学生は72.15%に達する。③ 授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「15, 22, 27」で91.43%であった。＜理解しやすい＞という項目では、「12, 27, 26」で92.86%であった。否定的回答の「少しそうでない」「全くそうでない」が「5, 0」で7.14%であった。＜学生の質問への答を得る機会＞では肯定的回答は「6, 21, 37」で91.43%であり、否定的回答は「5, 1」で8.57%であった。＜参加の機会＞では肯定的回答が「3, 19, 29」と72.86%で、否定的回答が「18, 1」で27.14%と極めて高かった。④ 学生の授業評価によると、知識・理解を得られ、質問と答えの機会もあるが、参加の機会が十分ではないということであろう。今後も理解等のためには、1)レジメ等による説明の工夫、2)予復習の方法の明確な指示、3)毎回、授業で配布し回収する学生の「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所は意見などを含理解の共有化を図る工夫を続ける外に、学科の1年生全員の授業でどのように学生の参加の機会を作れるかを模索し工夫する。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業準備として、今後も、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を明確にし、予習・復習の具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。とはいえ、この科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野での＜的確に判断する力＞及び＜その学びを深めたいと意欲をもつ＞ことの基盤となるものである。この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。そこで、参加意識を高めるうえでも、すでに記載した改善策に取り組む工夫をする。③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、学習方法を繰り返し喚起する。さらに、授業を進めるに当たっては、今後もレジメ等を活用し、学生から回収する「自己学習記録」から学生の授業の理解度をくみ取り指導を工夫する。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 学生の授業評価アンケート(学科全体72名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが71名で98.6%であって、他の動機は「単位数確保」が23.6%、「資格取得」と「関心」とが2.8%、さらに「GPAアップ」と「友人が履修」とが1.4%であった。自校学に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1にキリスト教と「感恩奉仕」を建学の精神とする西南女学院の歩みとの関係を明確にし、自校学の意義を明らかにし、西南女学院の学生としての「自己理解」と「人間性」に関わる科目であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「20, 33, 23」で100%であり、否定的回答は0であった。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、肯定的回答は「14, 16, 34」で84.21%であり、学生の関心ある質問に適切な答を提供できるように、授業毎に、オムニバス方式でテーマに相応しい講師を招き、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、自校学であることから、西南女学院の歩みを肌で感じることができるよう、創設者等の先達者の学校墓地(西南の森)を自主的に行くように工夫した。④ レポート課題で評価をすることとし、受講者が自ら関連するテーマを選び自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績を見ると、平均値は96.30点であり、再試対象は1名であった。分布的には、90点以上が85.71%、89～80点が3.90%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は89.61%であり、79～70点が7.79%、69～60点が0%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは7.78%で、未達者は1人で1.30%であった。成績で見ると、知識理解はほぼ目標に達した。② 学生の達成自己評価を見ると、＜知識＞＜理解＞に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「26, 30, 20」と「21, 35, 20」で、いずれも100%で、否定的回答は0であった。③ 専門分野での＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「14, 28, 30」と「14, 22, 35」で94.73%と93.42%であったのに対し、否定的回答は「3, 0」と「4, 0」で3.95%と5.26%、無回答がいずれも1.32%であった。＜意欲＞に関し肯定的回答は「22, 22, 28」で94.73%であり、否定的回答は「4, 0」で5.26%であった。④ さらに専門分野の＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得に関しては、肯定的回答はいずれも「12, 18, 35」で85.53%であったのに対し、否定的回答は「9, 1」と「10, 1」で13.16%と14.47%であった。前者には、無回答が1.32%あった。⑤ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「16, 27, 26」で90.79%であったのに対して否定的回答は「5, 1」で7.89%であった。⑥ ＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「14, 13, 27」で71.05%であったのに対し、否定的回答は「19, 3」で28.95%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性とコミュニケーション能力を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、＜知識＞＜理解＞では0であった。また、専門分野の学習においても学生の達成自己評価の否定的回答の数値は同様に低かった。すなわち、＜検討する力＞は3.95%で＜判断する力＞と＜意欲＞とは共に5.26%であった。しかし、＜技術＞＜コミュニケーション、表現力＞習得ではそれぞれ13.16%と14.47%と2桁であった。＜倫理・規範＞に関しては7.89%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、社会の一員としての豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞は否定的回答は0であり、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための＜倫理・規範＞の分野では否定的回答が7%台であった。さらに、専門分野の課題解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞＜判断する力＞、及び社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける＜意欲＞でも、否定的回答は3%乃至5%台と低く、また、＜技術＞の習得という専門分野と、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関しても否定的回答はそれぞれ13%乃至14%台に留まった。③以上から、CPの位置づけから肯定的回答は、技能表現の分野でも80%台であり、非専門と非技能表現の分野では100%乃至90%台であることから、授業内容は妥当であると考ええる。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、専門と技能表現の分野において同様なことが見られ、非専門と非技能表現の分野としての授業内容は妥当であると考ええる。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	① 学生からの担当教員へ要望としては、レポートの課題が多いので減らしてほしいという声があった。また、レポートの字数も最初から明確にして欲しいという声もあった。検討し、適切に対応したい。② 学習量の評価を見ると、＜1回30分以上の予・復習＞6回を予習が27.63%、復習が55.26%実施し平均41.45%が行い、1回以上で6回未満の学生もそれぞれ52.63%と42.11%で、予・復習のどちらか30分1回以上の学生は85.53%に達する。③ 授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」（以下同じ）の順に「20, 33, 23」で100%であった。＜理解しやすい＞という項目では、「11, 26, 31」で89.47%であった。否定的回答の「少しそうでない」「全くそうでない」が「7, 1」で10.53%と約1割強であった。＜学生の質問への答を得る機会＞では肯定的回答は「14, 16, 34」で84.21%あり、否定的回答は「10, 2」で15.79%と2桁であった。＜参加の機会＞では肯定的回答が「6, 12, 18」と47.37%で、否定的回答が「32, 7」で51.32%と極めて高かった。④ 学生の授業評価によると、知識・理解を得られ、質問と答えの機会はまあまああるが、参加の機会が乏しいということである。1) 今後も理解向上のために、レジュメ等による説明の工夫、2) 理解の共有化を図る工夫、3) 2学科の1年生全員の授業でどのように学生の参加の機会を作れるかを模索し工夫する。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、今後も、学習動機向上のために、グローバル化の時代における西南女学院大学の学生であること、その同窓生になることの意義を、それぞれの専門職との関りをもたせながら建学の精神「感恩奉仕」を要とする授業となるように工夫する。今後も、評価基準を明確にし、予習・復習の具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。特に、この科目はキリスト教の価値観に基づく西南女学院大学の学生という集团的アイデンティティを形成する実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野である。その専門分野での＜的確に判断する力＞及び＜その学びを深めたいと意欲をもつ＞ことの基盤となるものであるという重要な意義を踏まえ、すでに記載した改善策に取り組む工夫をする。
-----------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は「必修科目である」が97.1%であった。この科目は、全体での共通の講義のほか、教員のオムニバス形式(6回1クールで行うので、実際に学生が受講する教員は2名)で行う科目であることから、各教員の専門性を重視しつつ、大学における学びで必要不可欠である「調べる」「聞く」「読む」「書く」ための技能を身につけることを目的として授業を行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価について、理想的レベル(80点以上)に達した学生は63名、再試験対象者は0名であった。到達度自己評価をみると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.2、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値が4.1、「自分なりの目標を達成した」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値がいずれもに4.0であり、平均値が3.5であった「職業選択の選考になった」を除き、その他の項目も3.8を示しており、開講期間が異なるため単純に比較はできないが、全体的に2017年度の「基礎演習」の数値を上回っている。学習量については、授業の準備を1回も行わなかった学生が7名にとどまる一方、2、3回行った学生は24名、4.5回行った学生は13名、6回行った学生は23名であった。また、図書館の図書、雑誌を利用した学生は42名、インターネットを利用した学生は53名と、いずれも過半数に達している。ゆえに、半数以上の学生について、大学における基本的な学習の技能が会得できていると評価できよう。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「必修科目」、「総合人間科学科目」であり、大学における学習の技能を身につけるための科目である。当然福祉の専門領域を学ぶための技能を身につけるための科目でもあり、内容的には妥当であるとする。②DP:行動目標から見ると、すべてのDPの基礎となる内容を網羅しているともいえる。よって、内容的妥当性には問題ないとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値が4.4、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値がいずれも4.2であった。これらの数値についても、いずれも「基礎演習」より上回っている。学習量について、授業の復習を全くしなかった学生は19名にとどまり、多くの学生は1回以上復習をしている一方、授業の課題以外の学習に取り組んだ学生は、「基礎演習」より増加しているものの、15名にとどまった。授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習は「新聞を読む」「本を読んで理解を深めた」「レポートの書き方に関する図書を読んだ」などが挙げられていたが、これらはいずれも授業の課題と密接に関連する学習でもある。他方、授業の課題以外の学習に取り組まなかった理由については、「課題にしか手が回らなかった」「他の科目の勉強があったため」「必要ないと思ったから」「忙しかった」などの意見がみられた。大学での学習の技能は、振り返り、繰り返しながら徐々に身につくものでもあり、学生が積極的な学習姿勢をとるための動機づけが今後の課題であると言える。学生の意見については「自分の身になる授業です」との意見が寄せられた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	2018年度から開始されたこの科目では、全学共通の総合人間科学科目として「調べる」「聞く」「読む」「書く」技能の習得に重点を置いたが、当初の目標はおおむね達成できたと言える。後期に行われる「初年次セミナーⅡ」ではこの科目において培った各技能を基に、研究倫理のほか、さらに「発表する」「討論する」技能の習得を目指し、「初年次セミナーⅠ」「初年次セミナーⅡ」を通じて、専門教育が本格化する2年次以降の学習をより深めるため、大学で学ぶための基礎的な知識、技能を身に付けることを目指す。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業においては、学生の興味・関心を引きつけられるように、健康に関する身近な事例をできる限り多く挙げるようにした。 毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次の授業で説明を行った。 毎回の授業内容について復習、ならびに復習の過程でさらに興味関心を持った内容について調べまとめるための用紙を配布し、提出させることによって、学生の学習の状況を確認した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は74.5(±8.8)点であった。成績分布別にみると、90点以上が5%、89～80点が23%、79～70点が40%、69～60点が31%であった。ほとんどすべての学生が標準的レベルに達しており、そのうち28%の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」では、「かなりそうだと思う」が30%、「わりにそうだと思う」が44%、「まあまあそうだと思う」が23%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値4.0)。 「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」とい質問では、「かなりそうだと思う」が45%、「わりにそうだと思う」が47%、「まあまあそうだと思う」が8%と、すべての学生が肯定的に捉えていた(平均値4.4)。また、「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」という質問では、「かなりそうだと思う」が29%、「わりにそうだと思う」が47%、「まあまあそうだと思う」が23%と、ほとんどすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値4.0)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる科目である。授業では主に定期的な運動がどのようにして生活習慣病を予防し、体力を向上させるか、さらには運動の効果より大きくするために、どのように運動を計画していくのかなどについて解説を行った。「自分なりの目標を達成した」および「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価では、ほぼすべての学生が肯定的な回答を行っていたことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」以外の質問では、平均値が4.1～4.4であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 学習量の評価についてみると、予習(1回30分程度以上)については、「0回」と答えた学生が約15%、「1回」が5%、「2、3回」が22%、「4、5回」が16%、「6回」が40%、しかしながら、復習については1回30分以上の復習を6回行った学生は59%いた。一方、復習(1回30分程度以上)については、「0回」と答えた学生が約4%、「1回」が7%、「2、3回」が11%、「4、5回」が15%、「6回」が62%いた。このように40～60%の学生が習慣的に予習・復習を行っていたことから、学習に対する動機づけはある程度行うことができた考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	目標は概ね達成できたと考える。 今後はさらに学生が内容を理解しやすくなるような工夫と、学習に対する動機づけをさらに行なっていく。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	64

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 チームスポーツでは、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点（課題）などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84.9(±8.6)点であった。成績分布別にみると、90点以上が34%、89～80点が50%、79～70点が10%、69～60点が3%であった。ほとんどの学生が標準的レベルに達しており、約84%の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が32%、「わりにそうだと思う」が42%、「まあまあそうだと思う」が26%とすべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.1）。 「知識・理解 (DP1)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が22～23%、「わりにそうだと思う」が32～52%、「まあまあそうだと思う」が25～35%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.6～4.0）。 「態度 (DP4)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）についても、「かなりそうだと思う」が27%、「わりにそうだと思う」が33%、「まあまあそうだと思う」が37%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.8）。 「技能・表現 (DP5)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目7と8）についても、「かなりそうだと思う」が23～30%、「わりにそうだと思う」が33～43%、「まあまあそうだと思う」が23～40%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.8～4.0）。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる1年生対象の科目である。授業では体力向上を目指した運動（ストレッチング、筋力づくり運動およびスタミナづくり運動）の実施方法を実技を交えて解説した。また、チームスポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル）の技術練習およびゲームを行った。特にチームスポーツでは、授業の最後にゲーム中の良かった点や悪かった点など振り返り行わせ、次に向けてのチームの課題について話し合わせた。その結果、回を追う毎にゲーム中の声掛けが良く行われるようになり、より積極的なプレーが観察されるようになったように思える。このようなことから、本科目は内容的に妥当であると考ええる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.5～4.1であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、各種トレーニングおよび球技スポーツを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、球技スポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中にはウォーキングや筋力トレーニング、ストレッチなどを行っていた者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かし、健康の維持・増進に努める学生の数を増やすことである。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保健福祉学入門	1	前期	必修	はい	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は2018年度より新たに始まった科目であり、看護学科、福祉学科および栄養学科における学びをスタートするにあたり、保健・医療・福祉の専門性と多職種連携の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題への認識を深めていくものである。この授業では、各学科の学生が何を目標しているのか、そのために何をしているのか、他の専門職から何を期待されているのかを知る機会を提供するとともに、できるだけ具体的なイメージを得て、学ぶ意欲に繋げることに重点を置いたため、その進め方は、保健福祉学部長、各学科長、各専門職からの外部講師・卒業生によるオムニバス形式とした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は73.4(±8.4)点であり、再試対象者は3名であった。成績分布別にみると、90点以上が4%、89～80点が23%、79～70点が32%、69～60点が39%であった。ほとんどすべての学生が標準的レベルに達しており、そのうち27%の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」では、「かなりそうだと思う」が15%、「わりにそうだと思う」が45%、「まあまあそうだと思う」が39%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.8)。 「知識・理解 (DP1)」に関する学生の到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」とい質問で、「かなりそうだと思う」が34%、「わりにそうだと思う」が39%、「まあまあそうだと思う」が27%と、すべての学生が肯定的に捉えていた(平均値4.1)。また、「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」という質問では、「かなりそうだと思う」が21%、「わりにそうだと思う」が42%、「まあまあそうだと思う」が35%と、ほとんどすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.9)。 「態度 (DP4)」に関する学生の到達度自己評価については、「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)について学ぶことができた」という質問で、「かなりそうだと思う」が21%、「わりにそうだと思う」が32%、「まあまあそうだと思う」が41%と、ほとんどすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.7)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学の「基礎教養」領域に含まれる科目である。この授業では、各学科の学生が何を目標しているのか、そのために何をしているのか、他の専門職から何を期待されているのかを知る機会を提供するとともに、できるだけ具体的なイメージを得て、学ぶ意欲に繋げることに重点を置いたため、保健福祉学部長、各学科長、各専門職からの外部講師・卒業生によるオムニバス形式で進めた。「自分なりの目標を達成した」および「知識・理解 (DP1)」に関する学生の到達度自己評価では、ほぼすべての学生が肯定的な回答を行っていたことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考ええる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」以外の質問では、平均値が3.5～3.8であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標は概ね達成できたと考える。
-------------------------------	------------------------

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 興味関心をもってもらうことを一番とした。特に講義では“生活のなかで気づく体の正常なしくみと異常(疾患)”に焦点をあて説明した。 ② 今年度から、学習準備を早期から促すため講義回数の中で小テストを導入した。 ③ 学生の講義内容の習熟を図るため講義の最初に前回の講義の復習を行なった。また、講義中に項目ごとに質問を投げる、受ける機会を作った。 ④ レポート課題は、事前に講義を行った後、調べ学習をさせ、グループディスカッションにより知識を共有させた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は78点(±9.6)で学生全員が標準的レベルに達し、理想的レベル(80点以上)の学生は55.5%であった。小テストの平均点は8/10点で、課題レポート平均点は8/10点であった。 ②学生の到達度自己評価では“自分なりに目標を達成した4.0”、“新しい知識など得ることができた4.3”、“事象を理解する視点を獲得することができた4.2”であった。また、“専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた”とする自己評価平均値は4.0であった。授業の質評価では、“テストの評価基準や課題の明確さはともに3.7”、“説明の理解しやすさや話し合う・発表する機会があったはともに4.3”、“質問を受ける機会を設けていたは4.2”であった。 ③学習量の評価をみると全員が1回30分の予復習をしており、3回～11回した学生が50%いる。 ④図書館を活用した学生は83%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 この科目は一般教養科目であり選択科目である。社会人としての一般教養、さらに人体に関する基礎知識を学び専門科目へとつなぐ位置づけの科目として、この内容は妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 生物を学んでいない福祉学科の学生にとり、ハードルが高い科目とは思われるが、受講動機が関心のある科目とした学生が83.3%もいたためか、上記に記述したように学生の評価点は高く、科目の内容自体は妥当であるとする。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であるとする。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の総合評価点は高く、1名を除き学習量もある程度確保されている。今回、初めて導入した小テストをはじめ、講義の最初に前回の復習を行う取り組みや質問を受けるタイミングの考慮など効果があったと思われる。次年度もこれらの取り組みを継続し行う。 ②図書館利用率をよりアップさせるために、課題レポート作成時に評価視点について繰り返し説明する。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	一般教養科目としての本科目の位置づけから、一般教養と人体に関する専門教育への基礎知識を培うという目標は達成できた。学生の学習時間も増えており、今後も今までに実施してきた授業改善を継続し行う。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	齋藤 朗宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
数学リテラシー	1	前期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	事前準備としての事前クイズを実施し、予習の時間を確保すると同時に事後学習として、授業の最後にグループワークを実施した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験ならびに総合的な成績評価としては良好であったが、グループワークのレポートについて、理解が不十分と思われるものがそれなりにあった。試験のように何かをやれと言われればそれは難しくないのだろうが、どんな数式を使うか自分で考えるという部分で不十分さが残った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1年生科目であり、単位数確保を目的とした履修者も多く、履修者側に位置づけが十分に伝わっていなかった可能性がある。そのため、内容の良しあしとは別に、授業の目的がうまく伝わっていなかった可能性があり改善を考えたい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	グループワークについて、評価の公平性に対する疑問が一定数あったため、改善を考えたい(他の学生に任せきりで何もしない学生がそれなりにいたようだ)。また、事前クイズについては、採点の対象外としていたが、事前クイズへの回答も成績評価に加えることで、予習の学習量を増やしたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	開講初年度ということで、学生も私も手探りの部分があったが、数学という科目の特性もあり、簡単に感じる目標レベルまで楽に到達できる人と、難しく感じそうでない人との差が大きかったように思える。この部分の調整は難しいが、レベルの高い学生への追加課題などで対応することを考えたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	はい	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は選択科目であり、福祉学科のほか、看護学科および英語学科が一つのクラスとして受講した。本年度に限り、本科目を私が担当した。福祉学科の受講生は5人、受講動機は、受講動機は、「単位数を確保する」100%であった。講義では、福祉学科や英語学科のように、将来、専門分野で特に化学を必要としない学生向けに原子や分子の概念と構造、化学の基礎的知識と化学反応に関する基本的な理論・法則を、一般教養レベルで解説した。具体的には、化学的な用語や化合物の定義、代表的な有機官能基の代表的な反応、触媒の定義と働き、酸化還元などについて、最低限の定義、理論および法則を、化学初学者の大学生向けとして、入門編的に解説した。 ②講義は、スライド中心に進めている。教科書は指定しなかった。その代わりに、配付資料として、解説書を一から作製した。 ③講義に用いるスライドは、栄養学科向けのを、大幅に簡単に用いた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	5名の受講者の最終成績は92点と、予想を遙かに上回る高レベルであった。文系色の強い福祉学科の学生として、充分な得点と考えられる。受講者全員がすべての講義に皆勤で出席し、受講態度は熱心で、高評価に値するものであり、修学意欲を強く感じた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目は、総合人間科目、学部共通科目、選択科目である。内容的には妥当と考える。 ②DPでの位置づけは、知識理解を問う科目である。目標達成度は高く、内容的には妥当と考える。 全体としては、妥当な内容であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今年度は、十分な目標達成度が得られたと考えている。学生の受講態度は、 高い意欲を程度感じさせるものであった。 本科目の講義内容は、講義のタイトルである「生活の中の化学」を考慮して、 生活や身の回りの事例をできるだけ挙げて、講義を進めるようにした 本年度のみの担当であるので、今後の改善については、コメントを控える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成状況は、良好と考える。本年度のみの担当であるので、次年度につ いては、コメントを控える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
法学	1	前期	選択	はい	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「単位数を確保する」58.3%、「資格取得に必要である」33.3%、「必修科目である」22.9%、「関心のある内容である」14.6%であった。この科目はシラバス・イントロダクションにおいて、権利擁護論(3年後期)および司法福祉論(4年前期)で扱う講義内容の基礎となる旨を述べていることが、ある程度影響していると思われるが、資格取得において重要度の高さが今一つ伝わっていないことが懸念される。ただ、保健福祉学部3学科同時開講の科目のため、福祉に特化した授業内容にするのは困難であるが、学生が具体的なイメージを持ちやすい事例を挙げて、関心を引き付けるように努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均点は77.44点で、再試対象者は0名、理想的レベル(80点以上)に達した者は23名であった。前期試験の出題形式は、昨年度と同様、知識理解を文章で論述する形式に加えて、重要な語句を解答する(いわゆる穴埋め)形式および具体的な事例に合わせて法的な知識理解に加えて、支援する態度も併せて問う形式で出題した。昨年度よりやや平易な問題にした結果、平均点を上昇させる一方、再試対象者はいないという結果となった。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は3.9、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値はともに3.8であった。なお、DP1には含まれていないが、「専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値は3.7、「専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」、「専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均値はいずれも3.6であったことに加えて、「自分なりの目標を達成した」の平均値も3.6であったことと併せて、法学の知識が福祉の現場における問題解決に有用であることを学生がある程度理解できているのではないかとと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、国家試験の試験科目ではないが、シラバスにも明記してある通り、福祉専門科目である「権利擁護論」「司法福祉論」で学ぶ内容の基礎となる。また、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、人々を総合的に理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。②DP:行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考ええる。よって、内容的妥当性には問題ないと考ええる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」の平均値がともに3.8であり、昨年度に比べていずれも上昇している。他方、「学生が参加する機会が作られていた」の平均値が3.0とやや低い。これについては、講義の性質上、学生の参加の機会を設けるのは困難であると考えている。なお、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は3.3であった。今後は教員の業務の負担にならない程度で、学生の質問を促す方策を考えたい。学習量の評価について、講義内で予習・復習のやり方について説明したが、全く予習をしなかった学生は31名、全く復習をしなかった学生は30名で、最低1度は予復習を行っている学生は4割にすぎない。授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習について「復習」、「法についてしらべた」、「自分なりにまとめた」、「試験勉強」などを行っている学生がいる一方で、授業以外に学習していない理由として「取り組み方がわからなかった」、「時間がなかったから」、「する必要ないと思ったから」、「他の課題があったから」という意見が見られた。学生の意見については、「早口すぎて分からないときがありました」との意見があった。今後は講義ペース・講義内容を踏まえて、聞き取りやすい内容となるように努めたいと考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、人間を総合的に理解するための基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣の定着と、学生からの質問を促す方策を検討したいと考えている。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	薬師寺 元子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎英語	1	前期	選択	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	『受講動機』は、必修科目ですので、4名の学生を除いて、ほぼ全員真剣に取り組んだと判断致します。授業の実施にあたり大切にしていることは、積極的、且つ、能動的な学習態度を軸と致しました。①まず出席とレポートの提出が肝要であると強調致しました。②次に予習、復習に重点を置くように勧めました。③さらに、予習復習を徹底するためにノートを作り、その使い方を詳細に説明致しました。まず英文をノートに写し、和訳をし、新出単語を調べてくる。これは、一部の学生を除いて、約8割が実行致しました。『授業以外に具体的に取り組んだ学習』の自由記述に、「本文を全訳し、重要表現を復習した」、「ノート作成を行った」、「解らない単語を調べた」、「友達と英会話をした」、「予習、復習をした」、「文法を復習し直した」等と類似項目を含め12件ありました。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本科目では、全員が、標準的レベルに達し、再試対象者は4名でした。80点以上で、理想的なレベルに達したのは、69人名中49名もいました。考査の難易度は、標準的なものを作成致しましたが、「自筆ノート持ち込み」でございましたので、平均点が高得点であったということもございます。『学生の到達度自己評価』につきましては、概ね肯定的な解答で、(1)自分なりの目標を達成した(96%)。(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た(98%)。(3)事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることが出来た(88%)。(4)自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た(約88%)。(5)自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることが出来た(85.0%)。(9)職業倫理や行動規約(守るべきルールなど)について学ぶことが出来た(82%)。と非常に割合が高い結果になっておりますが、(10)職業選択の参考になった、という点に関しましては、2名が「全くそうでないと思う」、11名が「少しそうでないと思う」と否定的な解答が約26%もいました。肯定的な解答が74%ですので、相対的に言えばやや達成された結果となっております。自由記述につきましては、「授業を面白く学べた」、「短い期間でしたが解り易く教えて頂きました」とありました。今後も学生さんが満足いく、興味深い授業が出来ますように、努力致します所存でございます。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①＜CPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価＞ 本科目は福祉学科の必修科目であります。精読により、語彙力、文法力を徹底的に修得することが肝要でありますので、中心的必須科目の位置にあるといえます。学生の本科目に対する到達度自己評価に、「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」、「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることが出来た」、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た」、「職業倫理や行動規約(守るべきルールなど)について学ぶことが出来た」等に関するものが、ほぼ8割以上を占めていますので、本科目の内容的妥当性は確実であると考えます。 ＜DP、行動目標から見ての内容的妥当性＞ ②学生が達せきすべき行動目標は、「『英語』に取り組む積極的な姿勢を身に付けることが出来る」、「『受診の予約』から『退院』まで、医療の現場で使用される重要な英語表現を身に付けることが出来る」、「外国人患者に対して、積極的な対応姿勢を示すことが出来る」、と挙げられております。この項目につきましては、教科書、『Introduction to Medical English(医療英語入門)』により、知識を広めながら、英文を確実に精読し、内容を理解致しました。これにより、『英語』に取り組む積極的な姿勢を身に付けることが出来る」、「『受診の予約』から『退院』まで、医療の現場で使用される重要な英語表現を身に付けることが出来る」、「外国人患者に対して、積極的な対応姿勢を示すことが出来る」等により、本科目は適切であると考慮致します。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	<授業の質評価>につきまして、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」では、「まあまあそう思う」と「わりにそう思う」と「かなりそう思う」を合 わせると、88%でした。「期間内に行うべき課題は明らかであった」は、94%であった。「説明は理解しやすいものであった」では、74%であった。「授業中に自分の 意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」では、92%であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、其れ に答える機会がつけられていた」では、92%であった。以上総合いたしますと、ほとんどが、進め方につきまして、好意的な結果で、一生懸命に取り組んが効果が あったと考え、自己の授業の進め方を自負致します。しかし、これに止まらず、「学生アンケート用紙」等を活用したり、学生としっかり意思疎通を図ることによって、学 生がいかに、楽しく、興味を持って、英語に取り組むことが出来るかについて、更に、一層の工夫を凝らす所存でございます。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業を振り返ってみますと、教科書、『Introduction to Medical English(医療英語入門)』を中心に、非常に丁寧に、じっくり進めたので、かなり、効果的な授業を進め ることが出来たと考えます一方、「短い間でしたが、解り易く楽しく学べました」、という意見が出ていますので、一応学生の希望に添う授業が出来たと考えます。今後 も、学生の様子を観察しながら、効率の良い、授業を進めていくように努力致します。テキストは標準的なものでございましたが、実際は、大変時間が掛かる予習で、 専門科目と重複し、かなり負担であったと判断致します。しかし、教科書事態が、将来の職業に結びついたものであったので、興味を以て学習に取り組むことが出来 たのではないかと存じます。 <学生が具体的に取り組んだ学習>と致しまして、「予習、復習に取り組んだ」、「ノート作りに取り組んだ」、「単語をしっかりと覚えた」、「友人と英会話をし た」、「本文を全訳し、重要表現を復習した」、「文法を復習し直した」等が挙げられております。学期の始めに、「必ず、毎日英語に30分以上は接するように」と勧めま した。これが、英語力を向上させる動機づけに多少は役立ったのではないかと自負しております。今後は、「アンケート」で学生の意見を取り入れたり、「学生一人一 人と直接意思疎通」をしっかりと図りながら、学生の英語力の向上を目指して、なお一層、努力してゆきたいと存じます。
-----------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語入門	1	前期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 中国語入門の概要及び達成すべき目標とは、「正確に現代標準中国語の発音を習得する。基礎的な文法を学び、初級の日常的な会話表現を養成する。中国語の学びを通して、中国の文化や風習などを知る」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の72.2%を除いて、③「関心のある内容である」は61.1%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数がかなり少ない点については、ほかの専門科目と同じ曜日・時限にならないよう、次年度の時間割調整においても少し考慮していく必要があると考える。 3. 「少人数だから、教員とのコミュニケーションが取れる」という学生の意見から、これからの授業でも、できる限り学生一人一人と会話できる場面を増やしていくことができるように工夫したい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 最終的な成績の平均値は「80.5点」であった。標準的レベルを超えて、理想的なレベル（定期試験及び平常点の総合として80点以上）に達していた。 2. (DP-1)の知識理解をみると、将来の保健・福祉を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週2回の復習を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の学習到達度評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は平均点3.7点、また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.4点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	1.「授業の質の評価」について、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2.「授業の量」については授業外の学習はほとんどなかったことから、次 年度に向けては具体的な課題を提示するよう改善していく。 3.「図書館やインターネット等の利用」はほとんどないという結果がでていた。授業と関連している知識 やデータも重要視すべきであることを学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	1. 中国語入門は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと 習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。 3. 授業で学んだ内容によって、国際社会で人と会話を交わせる能力を、身に つけられるよう、養成していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル入門	1	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	韓国語が初めての受講者が多いことから、ハングル文字でつまづかないように経験上理解しにくいところを先回りして解説するなど、わかりやすい授業を第一に心がけた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回行いう小テストで、初回あたりは全員の平均点はあまり高くなかったが、徐々にハングル文字のコツをつかみ出して学期後半においては皆が高い平均点を出せるようになった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国・地域に興味をもち、言葉に現れる文化の違いなどを理解し、また実際に韓国語を話すことによって異文化への理解を深めながら学習が可能になったと思うので、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進捗は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。最終テストでは全員の平均点が高く語学の基礎的レベルには十分に達したと思う。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	本間 学

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	選択科目であり、さらに学生のスキルの幅も大きいことが予想されたことから初心者を中心として時間を掛けて説明し課題を設定した。 今回の受講動機をみると「関心のある内容」が15.2%、「単位数を確保する」が84.8%と、かなり消極的な理由から受講した学生が多いことが示唆するものであった。できるだけ具体的な例を挙げて、関心を持たせることをしてきた。 ①著作権、SNSの利用、スマートフォン利用に関して動画を利用して理解を深める工夫をした。 ②著作権、SNSの利用、スマートフォン利用およびメール等の文書作成の理解度を測るため小テストを実施した。 ③PowerPointでプレゼンテーションにおいて個人の技術習得を目指し個人毎にプレゼンテーションを作成しグループ毎で全員が発表した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績の平均値は85.9であり標準偏差は6.6であった。成績は課題(50%)、小テスト(20%)、プレゼンテーション(30%)として評価した課題の提出、出席状況、およびプレゼンテーションの発表状況は良く、理想レベル(80点以上)は上まわっているのもよしとすべきだろう。 学生の到達度自己評価の平均値は3.2～4.2と学科に比し低い、「まあまあ」と「わりに」にのみ集中しているので、善くも悪くもなかったという実感ではないかと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」であり、選択科目である。大学のカリキュラムポリシーにIT活用能力が含まれること、および成績評価から内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 簡単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.8、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が4.2と高かった。学生の成績を踏 まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより 積極的に授業に参加できるよう改善していきたい。 ②学生の意見として、「説明が速くてわかりにくかった」というものがあった。説明について後で参照できるように改善できる様にしたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。ただし、授業過程を振り返ってみたとき、学生 同士、学生と教員でのコミュニケーションをとる時間が足りなかったことが到達度自己評価、授業の質評価から分かったのでコミュニケーションを取る機会を増やす 工夫として学生からの教員への質問カードや学生同士の発表の時間を作るような時間を作るなど、来年度に改善を行いたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	花沢 明俊

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理基礎	1	前期	選択	はい	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	高校までの学習状況で、パソコンの扱いに慣れている学生とそうでない学生が混在しているため、課題を平易なものから高度なものまで段階的に用意し、高度な課題の一部は上級者のみを対象としたオプション扱いとした。15回の授業回数のうち、中間試験を含む第8回までは基礎技術の習得を行い、第9回以降はグループワークによる実践的な取り組みとすることで、学習意欲の継続と学習内容に対する興味喚起に努めた。 情報関連の知識・技術が今後の学生生活や就職後に必須であることを理解できるよう、課題の内容を工夫した。 また、後半のグループワークでは、創造性やコミュニケーション能力の育成といったグループワーク一般の目的に加え、各自が目指す職業の社会的意義や多様な活動についての情報収集を通し、職業そのものおよび身につけておくべき情報技術について、理解を深め実感を得られるよう学習プロセスをデザインした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績点は、課題の提出やプレゼンテーションなどのプロセス評価50%と、中間・期末試験の点数による達成度評価50%から構成されているが、課題の提出率が非常に高く、目標達成のためのプロセス遂行が確実に行われた。結果として、試験の点数も全体的に良好であった。 授業アンケートの到達度自己評価の項目のうち、本科目に特に関係する(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、の結果は良好であった。 学習量の評価については、テキストによる予習を推奨したが、授業アンケートの結果から実際の予習回数は低率であった。予習とリンクした課題を設ける等の改善策を検討したい。授業外の課題を行っている学生は少ないが、これは授業の課題量が多く、一部は宿題となるため、授業外の課題を行う必要性は少ないと考えている。実際、自由記述に「必要ない」という記述が多い。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、全ての学科に存在する学科横断的科目であり、在学中のレポート作成や発表など様々な場面で必要となる。さらには、就職後の実務において、全学科の学生が要求される内容である。このような観点から、学生それぞれの学習準備性の高低にかかわらず、全員がある一定レベルの技術水準を達成すること、授業終了後も技術習得を継続できるよう、受動学習だけではなくグループワークによる能動学習を行うこと、これら2点を柱としている。授業の妥当性が真に問われるのは、3年生、4年生の実践の機会や、就職後であり、このような将来の展望から必要性を理解した受講動機の割合は少ないが、授業を通して理解されるよう努めている。実際、到達度自己評価の項目のうち、(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、の結果は良好であった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	図書館利用で、図書や学術データベースの利用が定率であったことから、これらの利用について、明示的に指示した課題等を設定する必要があった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。また、結果として試験においても全体的に高得点であり、高い達成度が得られた。授業アンケートの受講動機において、将来への展望に欠ける回答が多いため、受講動機に対してより訴求性のあるシラバスに改善し、授業内容そのものも、より学習動機を理解しやすいものとしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。全8回の講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を5団体招聘して、リアル講義の工夫をした。 特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということ、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー(内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認)を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させた、
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものとする。 講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師(ゲストスピーカー)の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝えるようにして、講義以外 の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講においては、学生からの自己評価やアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、シラバス通りに進化した。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。 また、福祉学科の受講していない学生から、福祉学科の学生として、興味がある講座名で受講したいのですが、他の教科(教職の必修科目)と重なっていて、どうし ても受講できない、という意見をたくさん頂いた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	一年前期開講、必修、演習科目であるため、 ①授業計画、達成すべき目標を分かりやすく伝えるよう努めた。 ②授業の終わりには毎回、各授業の目的を記した用紙にて小レポートを提出させ、学生の意欲、態度、理解度の把握に努めた。 ③②を踏まえて次の授業での演習方法や目的説明のあり方を調整するようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85点であり、単位未修得者は0名であった。 殆どの者が標準レベルに達した。学生による授業評価においては、全員が「自分なりの目標を達成した」と答えており、1年前期の時点でこのような自己評価ができたことは評価できるものと考えられる。細部については、知識獲得、視点獲得ができたと答える者が大半であり、専門分野との結びつきを意識しながら取り組むことができたようである。また、意欲のみならずスキルを獲得したと思える学生が多くみられたことは、目標達成に繋がったと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目は、一年前期開講の卒業必修科目である。大学の教育方針、授業形式、人間関係に慣れ、一年後期からの「専門科目」の演習群に導入していくための重要な位置付けがあると考えられる。 ②成績評価からは、目標は概ね達成されており、学生の自己評価では達成できたと評価する学生が多くみられたことから、今後の学生生活、専門科目における講義、演習の履修に大いに役立つ体験が得られたと考えられる。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価は、全5項目において「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」とすべての学生が回答しており、平均値は4.5～4.7であった。 授業の進め方は適正であり、来年度も引き続き、新入学の学生の状況を個人、集団での理解の様子をみながら、より良い授業展開を図っていきたい。 学習量については、30分以上の予習時間を週に1回以上取った者は6名、30分以上の復習時間を週に1回以上取った者は8名と其々半数程度であった。また、自 発的学習に取り組んだ者は0名であった。自由記述による学生からの意見に「課題でいっぱいだった」との意見が見られたが、演習であるため、出席して活 動すること自体が重要であると伝えており、「授業内で体験したことを内省し、自己理解を深めていくこと」を目的にした課題提出を求めたためと考えられる。また、自 由記述には「実践が一番大切だと思ったから」（課題以外の）学習には取り組んでいないとの意見があり、授業で得た知識や技能を日常における実践に移している、 移そうとしていることは評価に値する。アンケートの数値には十分に反映されていないが、授業以外の時間においても課題及び課題外において学生は十分な学習 量を確保したものと考えられる。但し、自由記述にて「取り組み方が分からなかった」「することが分からなかった」という学生もいたことから、新入生であることを考慮 した大学生の学び方についての丁寧なオリエンテーションが必要だと考えられる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね達成できたと考えられる。 来年度も引き続き、新入学の学生の状況を個人、集団での理解の様子をみながら、より良い授業展開を図っていきたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	谷川 弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	・密度の濃い対人スキルの見直しの機会となっているために次を重視してきた。 a. テーマの説明を丁寧に行う b. 達成感もてるよう、できたことを評価する c. 弱点は長所でもあることを指摘する d. 「いまできないことがあっても良いが、卒業するまでには克服するよう見通しを持たせる f. 振り返りの時間を大切にする。 ・例年、テーマ毎に2回目の授業の最初にまとめを提示することで視野を広げたり、深めることをねらっていた。 その方法では集中できないことが課題となり、昨年度よりその枠をはずしはじめ、今年度は1回完結型で構成した。 ・ルーブリックを用いていることを活かし、毎回のパフォーマンスを得点化するなどを行い、最終的なレポートを書き上げる前までに各自の達成目標別評価を手渡すようにした。達成目標別評価は評価割合及びコメントで構成され、コメントは必ずプラス面を記述の上、必要な場合課題を示した。さらに、補足的コメントをつけ、課題を明確に示すようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. アウトカム評価 成績は7割から8割であった。基本的な対人スキルをもち、実行することができていた。 各々の長所、弱点が明らかになったので、上述の個別の評価表に示して手渡すことで意識付けできたと思われる。 2. プロセス評価 対人スキルとして苦手さがある場合であっても、前向きに取り組む姿が多く見られた。 授業内容にかかわらない1年生としての不安や困り事など、いろいろな想いに耳を傾けることで、関係性はスムーズになった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	とくになし
---	-------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業を1回完結型にして双方向コミュニケーションを増やしてきたこともあり、進行についての学生の認知は改善していた。 <table> <tr> <td></td><td>昨年 ⇒ 今年</td></tr> <tr> <td>評価基準の明確さ</td><td>3.3 ⇒ 4. 1</td></tr> <tr> <td>課題の明確さ</td><td>3.3 ⇒ 4. 1</td></tr> <tr> <td>理解しやすさ</td><td>3.0 ⇒ 4. 3</td></tr> <tr> <td>参加機会</td><td>4.1 ⇒ 4. 3</td></tr> <tr> <td>質問の機会</td><td>3.8 ⇒ 4. 3</td></tr> </table>		昨年 ⇒ 今年	評価基準の明確さ	3.3 ⇒ 4. 1	課題の明確さ	3.3 ⇒ 4. 1	理解しやすさ	3.0 ⇒ 4. 3	参加機会	4.1 ⇒ 4. 3	質問の機会	3.8 ⇒ 4. 3
	昨年 ⇒ 今年												
評価基準の明確さ	3.3 ⇒ 4. 1												
課題の明確さ	3.3 ⇒ 4. 1												
理解しやすさ	3.0 ⇒ 4. 3												
参加機会	4.1 ⇒ 4. 3												
質問の機会	3.8 ⇒ 4. 3												

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生のサインを捉えて取り組むことで、大きく改善することが明らかである。今後も、同様に取り組んで行くことが望まれる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされるスキルについて、1年生が教員別グループに分かれ、参加型、体験型の演習プログラムを中心として行う講義である。 テーマを4領域に分け、演習を通じて学ばせる。1年生の対人接触サービス業を目指すものとしての、必要なものを習得できるよう工夫した。特に自分を表現し、人との関係性を作ることを目的として、とりわけゲームの要素を導入して、個人や集団になってかわりを持たせるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということを、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー（内容は休まない、協力する等の再確認）を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させた、
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	先ず考えられることは、欠席が1名の1回のみであった、ということである。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、大学に入って一番楽しい授業であった、という記載内容のものが多かった。当然それだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、この演習の必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学んだことをまとめることができ、理想的レベルまで達成できたものとする。 昨年度、及び昨年度の反省で、講義時間内だけのものになった感じが見受けられたので、今年度は昨年度工夫をした点を取り入れ、現実社会の中でのリアルな状況設定することを意識した。特に、障害者や高齢者、児童等が関係している社会的ニュースの情報提供を行い、そのことを先ずは考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性については、専門基礎科目でもあり、1年生の福祉、とりわけ対人接触サービスを行う専門職としてのスキルを身につける講義として、関係性の重要性を理解すること、そのことを体験として学習していくことを考えていけば、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても、コミュニケーションスキルの重要性、協力するためのスキルの獲得もできていると考えられることから、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。今年度行った新しい試みを、さらにより具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝わるようにして、講義以外の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	大学に入り、1年生で最初にグループ化して「責任ある行動、協力、課題を自覚、自己研鑽、コミュニケーションスキル」の理解と能力を高めるための、非常に重要な演習だと考える。本演習においては、学生からの自己評価やリアクションペーパーや、最終講義の時の個別報告によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。講義内容もシラバス通りに進化した。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代と共に求められるコミュニケーション能力も変遷をしていくと考えられるので、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	対人援助の専門家として基礎的に必要とされるスキル(①自分を表現する力を形成する、②コミュニケーションを通じて関係を作る力を形成する、③人と協力して物事を進める力を形成する)について、小グループに分かれ参加型・体験型の演習プログラムを中心とした授業を行った。上記の目的を達成するために各自の意見・感想を率直に述べられるような雰囲気づくり(例:「他者の意見を批判・批評しない事」を約束とするなど)に努めた。また各自の内省力を高めるために、グループ討議だけでなく、毎回振り返りシートを作成し、記入させた。1年前期の必修科目であり、コミュニケーションや自己表現の力が求められる授業であるため、学生の学習準備性にはばらつきがあると想定されたが、なじみのあるゲームやエクササイズを準備したり、「自分なりの変化」に目を向けるような介入を行うことで、これに対応した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	出席日数が満たなかった者を除いた成績の平均値は81.58(±9.96)であった。出席日数や最終レポートの基準を満たしていないといった理由により単位を取得できなかった者が複数名いたのが残念であった。しかしながら学生の自己評価では全ての項目においてその平均値が3.9-4.4と高く、特に本科目の目的である「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目の平均値は4.4と高く評価していたことから、一人ひとりのコミュニケーション能力の向上にはつながったと考えられる。従って本科目の教育目標は一定程度達成できたものと評価している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は福祉基礎科目として位置づけられており、学科のCPとも合致すると考えられる。学生は「必修科目である」ことを受講動機にしている者が100%であり、他の項目を選択した者はいなかったことから、例年に比べ本科目に対する興味関心がさほど高くないことが示唆された。しかし学習到達度の自己評価の平均値がいずれの項目においても高い(range:3.5-4.4)ため、自分の能力やスキルの向上を実感できたものと考えられ、内容的妥当性はあるものと評価している。一方DP及び行動目標という視点から検討した場合、個人間でばらつきはあるもののDP4.5とも一定程度達成されていると評価できるため、方法的妥当性も有しているものと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価については、全ての項目の平均値が4.1-4.8と高く、演習という形態の授業であること、授業の実施にあたって重点を置いてきたことと合致した結果であると考えている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の到達度評価、授業の質評価のすべてにおいて高い数値を示しているため、方法論的には大きな問題はないと考えられるが、単位を取得できなかった者が複数名いた。原因としては出席日数が足りなかったこと、最終レポートの基準を満たしていなかったことなどが挙げられる。今後こうしたissueに対応する上で、レポート基準を丁寧に説明しなおす必要が出てきたと思われる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は、「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」9.1%、「単位数を確保する」9.1%であった。本科目は、1年生前期開講科目である。そのため、科目名から講義内容をイメージできない学生もいると考えられるため、1回目の講義では、到達目標や内容等を口頭および文書で伝えた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価において、10項目中3項目は平均値が4.5点以上であり、7項目は平均値が4.2点以上であった。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は平均値4.7点であり、66.7%の学生が「かなりそうだと思う」と回答していた。コミュニケーションスキルは、本科目で重視している内容のひとつである。また、再履修対象者もいなかったことから、教育目標は達成されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、カリキュラムマップにおける専門教育科目である。全ての学生が標準レベル以上に達したことから内容は妥当であると考えらえる。 ②DPIにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、ヒューマンサービス専門家に必要な態度(DP4)、技能表現(DP5)を習得する科目である。学生の目標達成状況からDPIにおける内容は妥当であると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」平均値4.8点、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」平均値4.7点、「説明は理解しやすいものであった」平均値4.6点、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」平均値4.2点、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」平均値4.1点であった。次年度においても、学生が積極的に参加することができる演習内容を検討していく。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	成績および到達度自己評価の結果から、教育目標を達成できたと考えられる。授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として、「授業で完結できたから」「授業で振りかえりをしたから」といった意見がみられた。来年度もワークや課題の実施後には、学生間と教員で学びを振り返る時間をつくるようにする。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は1年次の必修科目であり、受講動機も「必修科目である」が100%となっている。対人援助における最も基礎的なコミュニケーション力を養う演習科目であり、自己表現や他者と協働する力を養うことが本演習の主眼となっている。そこで演習ではグループワークを通して、発表する機会や協力して1つの作業を行う機会を設けた。また初年次の演習科目であるため、楽しみながら演習に参加できるよう、ゲーム性のあるワークをできる限り取り入れるようにし、仲間づくりができるよう努めた。毎演習の最後には必ずふり返りの時間を設け、学生の感想を次回の演習の冒頭でフィードバックし、全員で学びの共有を図るようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均点は80点、到達度自己評価の「自分なりの目標を達成した」の平均値は4.1点であり、概ね目標は達成されたと考えるが、最も基礎的なコミュニケーションの演習であることを考えると、次年度以降さらなる成績の底上げを図っていきたい。到達度自己評価を見てみると、DP4に関わる「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」は平均値4.1点であったが、「職業選択の参考になった」は平均値3.6点となっており、演習で行っていることと、職業とのつながりが実感できるような工夫が今後必要である。DP5に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は平均値4.2点、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は平均値4.4点であり、概ね達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
---	---------------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、各項目の平均値が4.2-4.4点となっており、概ね問題なかったと考える。ただ、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の項目において、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。すべての学生が質問しやすいよう工夫していく必要がある。「学習量の評価」、「情報利用」、「図書館利用」の各項目については、コミュニケーション中心の演習であるため、いずれも低い値であった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生の目標達成状況より、目標は概ね達成されたと考えるが、本科目は福祉基礎科目に位置づけられているため、さらに全体の成績の底上げを図ってきたい。またコミュニケーションのワークの中で、学生が職業とのつながりが実感できるような工夫を行ってきたい。さらに学生が質問しやすいよう工夫を行ってきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉入門	1	前期	必修	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2018年度より新たに1年次必修として開講したものであり、学生の福祉専門職への動機づけを主な目的としている。授業は専任教員5名と福祉現場に従事している外部講師(5名)で担当している。学生の履修動機をみると、「必修科目である」(98.6%)がもっと多く、「関心のある内容」は12.5%であった。授業では、こうした学生の履修動機や教育目標を鑑み、出来る限り福祉専門職への興味・関心が高まるよう、近年の福祉問題や動向を教授した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成されなかった	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体の成績は平均84.2点であり、この点では教育目標は達成されたと考える。各DP項目について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見てみると、「知識理解」(DP1)については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(かなりそうだと思う30.1%、わりにそうだと思う46.6%)であり、目標はやや達成されたと考える。「思考判断」(DP2)は「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」(かなりそうだと思う30.1%、わりにそうだと思う38.4%)となっており、目標はやや達成されなかったと言える。「意欲関心」(DP3)は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(かなりそうだと思う35.6%、わりにそうだと思う42.5%)であり、目標はやや達成されたと考える。「態度」(DP4)については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(かなりそうだと思う23.3%、わりにそうだと思う39.7%)であり、目標はやや達成されなかったと言える。 この他、学習量の評価(予習0回60.2%、復習0回54.8%)や図書館の利用状況(利用しなかった89.0%)から、学生の主体的学習態度の点でも課題が残った。総じて教育目標はやや達成されなかったと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 全体の平均点は84.2であった。また授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価の「意欲関心」について、教育目標はある程度達成されていた。以上のことから、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP,カリキュラム上の位置づけ 本科目の主要な教育目標は福祉専門職への動機づけであり、本科目のCP及びカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	教育目標がやや達成されなかったことや学生の学習量、図書館利用の状況から課題が残った。本科目は専任教員5名と外部講師によるオムニバスであり、今後は明らかとなった課題を教員間で共有し、改善策を検討していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	次年度は、授業内容・展開方法等について教員間で十分に協議し、教育目標の達成を目指したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学概論Ⅰ	1	前期	選択	いいえ	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」66.2%、「資格に必要である」50.0%、「関心のある内容である」23.0%、「単位数を確保する」25.7%、「GPAをあげる」12.7%、「友人が履修している」5.4%であった。1年次科目であるため、まずは資格取得に勧められている科目として受講してみようかという学生が中心であると考えている。また、本科目は学生が初めて心理学の基礎的理論や研究に触れる科目であることから、できるだけ具体的な例を挙げて、専門性のある概念や言葉に親しみ、関心を深めるようにしている。 授業毎に提出させている小レポートに挙げられた質問や疑問は、次回授業にてフィードバックを行い、学生の関心に応じるよう工夫した。 毎回、授業前に前回の復習として、授業の流れを振り返り、繰り返し説明することで、知識の定着を図った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など		最終的な成績の平均値は67.4点であった。80点以上の理想的レベルの者の割合は14.9%、60点～79点の標準レベルの者の割合は62.2%であったことから、およそ半数の者は標準～理想的レベルの知識理解が進んだと考えられる。また、再試受験者のうち、50%の者が標準的レベルの者と同等の知識を獲得した。 学生の自己評価においては「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目の、全くそうでないと思う、少しそうでないと思うは0名であり、平均点は4.1点と高く、自己評価を試験結果に結びつけることが難しい学生がいることが考えられる。 授業後の小レポートでは、殆どの学生が講義内容を踏まえて感想や意見を述べており、積極的に授業参加する姿勢(態度)がみられた。				

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「選択科目」であるが、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験受験に必須の内容である。また、それらの資格に加え、養護教諭、保育士など対人援助職としての専門性を養うには、人のこころの理解は基礎である。したがって、1年次の心理学概論の学習は重要でかつ妥当であると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において「説明は理解しやすいものであった」に全くそうでないと思う、少しそうでないと思うと答えた学生は0名であった。平均値も4.2と高く、教授内容を質、量ともに適切に伝達することができたと考えられる。 学生アンケートによると、学習準備を30分程度1回以上行った者が49名、うち4回以上行った者が10名だった。また、復習を30分程度1回以上行った者が58名、うち4回以上行った者が11名だった。授業内容は新しい概念や言葉など知識獲得を目的とするものであったため、まずは授業内容を理解し獲得していくことに専念した学生が多かったと言える。 授業以外の学習に取り組んでいない者は58名であるが、「必要がなかった」「しなくていいと思った」「理解できていたから」と積極的理由を述べる学生と、「時間がなかった」「めんどくさかった」「やり方が分からない」と消極的理由を述べる学生がみられた。但し、多くの学生が試験により知識の定着を証明していることから、試験勉強にはきちんと取り組んだことが考えられる。授業以外の学習に取り組んでいる者は16名であるが、「授業の復習」「ノートをまとめた」等が中心であり、まずは授業内容を自分のものとして吸収することを念頭に学習をしていることが伺える。毎回、提出すべき課題等を課しているわけではないが、学生が自主的に予習・復習に取り組んでいたことが伺える。 「気になったワードを調べた」「指定図書を読んだ」「国試の勉強」という学生がいたが、今後このような姿勢の学生が増えていくことが期待される。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の目的とする基礎的知識の形成について、概ね達成できた。 一部学生に、自主的な予習・復習を行い、日々の授業内容について行くことが難しい学生がいたことから、今後そのような学生に対しても十分な学びを促していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育原理	1	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、ほぼ全ての学生の動機がそれに該当する。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないため、授業準備においては、専門職として最低限必要な内容は必ず盛り込むことと、事例提示や取り上げるトピックについて受講学年の興味・関心に沿ったものを準備するようにしている。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価から全体的な教育目標は概ね達成できたと考えます。学生の「到達度自己評価」においては、最も低い項目の平均点でも4.4であり、学生の主観的な達成度も高いと考えます。一名、欠席が目立つ学生がおり、成績表が低かったが全体としては一定の水準は達成できたと考えます。一部、大学に入って初めての授業ということもあり、取り組み方がわからなかったというコメントもあったが、達成度自体は高いため、うまく適応したと考えます。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士としての原理原則に関する知識教授を第一義とする講義系科目であることから、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは妥当なものであると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	受講人数が10人ということもあり、比較的時間的な余裕を持って授業を進行できたが、先述した通り、学習のフィードバックについて検討する必要がある。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。
------------------------------	----------------------------------

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容 表現	1	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、全受講学生の動機がそれに該当する。また、保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 例年に比べ受講人数が少ないため、双方向的に授業展開をする時間が長く取れ、学生のこれまでの経験や学修状況についても適宜把握が可能であった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された		達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて全学生が「到達度事項評価」にて全項目達成できたと感じており、シラバスの達成目標を基に作成した自己評価チェックリストにおいてもほぼ全ての学生が学修効果を実感している様子が確認された。 成績評価上も良好であり、学生の実感と近い結果であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育内容に深くかかわる科目であると同時に具体的保育指導案を立てることや模擬保育を行う課題があることから、関連DPについては妥当であるとする。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	例年に比べ受講人数が少なかったことから、双方向的に授業を進める余裕があり、学生の質問や指導に充てる時間を十分にとれたと考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。授業進行については、年度の学生の状況を踏まえて、検討が必要であると考えますが、受講人数が増えるほど直接的に学生に教授することが困難となるため、資料提示や学習ソースの紹介に工夫が必要であると考えられる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育の表現技術 I	1	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ピアノ奏法の学習準備性においては、幼少期から大学入学前までの経験の有無によって大きく異なるため、予めピアノ経験の有無やレベルについてのアンケートを実施し、一人ひとりのレベルに応じたクラス分けを行った。各学生の演奏技術のレベルに応じた課題と進行計画を学生と話し合いのうえで設定し個別指導を行うことで、技術習得への意欲を高めるように努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて、学生が授業時間以外にもピアノの自主練習を行ったことが記述されており、学生が技術習得に向けて主体的に取り組んだことが示された。到達度自己評価について『自分なりの目標を達成した』に対して「わりにそうだと思う」37.5%、「かなりそうだと思う」62.5%との回答であった。ピアノ奏法の実技試験においては全学生が奏法のレベルを上げることができ、ピアノ経験なしの学生も基礎的な演奏技術を身につけることができたことと判断された。音楽の基礎知識を問う筆記試験とピアノ奏法と歌唱の実技試験を合計した評価においては、平均点が85.3点でほぼ全員が理想的レベル(概ね80点以上を理想的レベルとして設定し、1名のみが79点、他学生が80点以上であった)に達することができた。各学生の理解度を確認しながら授業をすすめ、必要に応じて個別指導を行うことによって全員が一定程度の習得レベルに到達することができた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は1年次開講科目であり、保育専門科目の受講に対する動機づけにつながるという点で重要な科目であると考え。教育目標においてはピアノ奏法のレベルによる目標設定を行ったが、授業内容としては歌唱や人の前に立って表現活動を行ことを取り入れた。また、学習準備性において個人差が大きかったものの、授業への取り組み、達成状況においてはある一定の成果が得られたことから、内容的には妥当であると判断できる。 ②DP、行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性には問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	音楽的基礎知識の獲得と学生が自ら音楽表現を楽しむことに重点をおいたことで、学習への意欲を向上させることができたと考える。一昨年度からの課題である「テスト、レポート、提出物などの評価基準」を明らかにすることにおいては平均値が4.0であり、他の評価項目と比較すると低い数値となった。引き続き、改善に努めたい。また、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」ことについては平均値が4.3と高い数値であったが、これを維持していけるように努めていきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成度自己評価の結果と日々の学生の取り組みの様子から、教育目標は一定程度達成できたと考えられる。本科目は1年次のみの開講であり2年次以降は個人の努力でさらにピアノ奏法のレベル向上に努めていくことが求められることから、学生の技術習得への意欲を高め、自発的練習につながるようさらに工夫していくことを今後の課題としたい。
------------------------------	--